

全国高校化学グランプリ 2007

実施報告書

主催	夢・化学-21 委員会 日本化学会化学教育協議会
特別協賛 後援	科学技術振興機構 文部科学省・経済産業省

目 次

1. まえがき	3
2. 全国高校化学グランプリ 2007 の記録	
2-1. 実施記録	4
2-2. 選考結果	
2-2-1. 入賞者一覧	13
2-2-2. 第 40 回国際化学オリンピック代表候補一覧	15
2-3. 大賞受賞者の声	16
2-4. 一次・二次選考の結果と講評	
2-4-1. 一次選考の講評	23
2-4-2. 二次選考の講評	29
2-5. アンケート集計結果	
2-5-1. 一次選考参加者へのアンケートと回答結果	33
2-5-2. 二次選考参加者へのアンケートと回答結果	38
2-6. 報道記事リスト(全国高校化学グランプリ)	45
3. 第 39 回国際化学オリンピック	
3-1. 実施記録	47
3-2. 第 39 回国際化学オリンピック参加レポート	51
3-3. 報道記事リスト(国際化学オリンピック)	55
4. 資料	
4-1. 全国高校化学グランプリ 2007 一次選考問題と解答・解説	58
4-2. 全国高校化学グランプリ 2007 二次選考問題と解答・解説	119
4-3. 第 39 回国際化学オリンピック筆記問題	138
4-4. 第 39 回国際化学オリンピック実験問題	159
4-5. 平成 18 年度収支実績および平成 19 年度収支予算	172
4-6. 委員会等実施記録	173
4-7. 関係者一覧	174

1 まえがき

本冊子は、年に一度の高校生の化学の競技会として、夢・化学-21 事業の一環として日本化学会化学教育協議会内の化学グランプリ・オリンピック委員会が運営している「全国高校化学グランプリ 2007」の実施状況をまとめたものである。

今年の全国高校化学グランプリ(以下化学グランプリ)は、全国の 49 会場で 2,009 名という過去最高の参加者のもと、7 月 16 日(月)の海の日に一次選考が実施された。会場数が昨年の 30 会場から大幅に増えたこともあり、参加者数は昨年と比べおよそ 1.5 倍の伸びであった。その一次選考の成績上位者のうち、57 名が 8 月 18 日(土)に東京工業大学大岡山キャンパスで実施された二次選考に進出し、実験問題に挑戦した。そして総合成績により大賞 7 名、金賞 14 名、銀賞 19 名、銅賞 17 名がそれぞれ選ばれた。また、本グランプリは国際化学オリンピックの代表選考も兼ねており、来年ハンガリーで開催される第 40 回大会の代表候補として、1, 2 年生の成績優秀者の中から 22 名を認定した。今後は本委員会内のオリンピック・ワーキング・グループにより訓練体制が整えられ、来年の春に最終的な代表 4 名を決定し、さらに訓練を重ねて国際化学オリンピックに送り出すことになっている。

今回の化学グランプリでは、新たな試みとして二次選考を一泊二日の合宿制として行なった。一日目は、例年通りお昼に集合し、実験に関する説明の後 4 時間の実験試験を行ない、終了後懇親会を催した。二日目は、化学会館のホールに集合し、前日に取組んだ実験問題の解説を行ない、その後東京大学の中村栄一教授にご自身の最新の研究成果について講演を戴いた。そして、昼食を挟んで総合成績の発表となり、大賞から順に各賞の受賞者が発表された。このように、初めての試みで手探りの部分もあったが、全国から集まった化学好きの高校生が互いに親睦を深め、実験問題の解説や最先端研究の講演を聴き、成績発表の後に解散するという内容は、参加者たちに概ね満足してもらえたようであった。一方で、新たな課題も浮かび上がった。一次選考の参加者が大幅に増加したことは嬉しい限りだが、これにより二次選考の進出者の割合がこれまでの全体の 5%から 3%へと、一気に狭き門となってしまったことである。この点に関しては、今後二次選考進出枠を拡大することで、少しでも多くの高校生がこの合宿の楽しさを味わえるように対応していきたいと考えている。

もう一つの新たな試みは、化学オリンピック代表候補枠をおよそ 20 名に拡大したことである。このことによって、オリンピックの出場権を得るための競争は激しくなるが、各自で能力を高めるための努力が必要となり、全体の学力アップが期待できる。大学教員のアドバイスを受けながらのトレーニングの過程は、たとえオリンピック代表に選ばれなかったとしても、生徒にとっては将来に向けての貴重な経験となるだろう。未来の日本の化学を支えるエリートの育成に繋がればとの密かな願いもある。

最後に、今年度も化学グランプリが無事実施できたことに対して、一次選考にご協力いただいた各支部の会場担当の皆様、二次選考の会場を担当していただいた東京工業大学の関係者の皆様、そして「学びんピック」の認定をはじめ財政面での援助をいただいた文部科学省、経済産業省、科学技術振興機構、夢・化学-21 委員会の皆様に深く感謝するとともに、今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます次第である。

平成 19 年 11 月
日本化学会化学教育協議会
化学グランプリ・オリンピック委員会

委員長 杉村 秀幸

2 全国高校化学グランプリ 2007 の記録

2-1 実施記録

昨年に引き続き、全国規模で9回目の大会を第40回国際化学オリンピック(40th IChO)への代表選抜を兼ねて開催した。

主催は夢・化学-21 委員会((社)日本化学会, (社)化学工学会, (社)新化学発展協会, (社)日本化学工業協会)と日本化学会化学教育協議会, 実際の活動は日本化学会化学教育協議会の『化学グランプリ・オリンピック委員会』の中に「運営幹事会」, 「作題 WG」, 「オリンピック WG」, 「広報 WG」, 「報告書 WG」, 「普及 WG」を設置し, 実施した。

[全体スケジュール]

募集期間	平成 19 年 4 月 23 日(月)~6 月 22 日(金)	
一次選考	平成 19 年 7 月 16 日(月)	於:全国 49 会場
採点会	平成 19 年 7 月 23 日(月)	於:化学会館
二次選考	平成 19 年 8 月 18 日(土)・19 日(日)	於:東京工業大学/化学会館
採点会	平成 19 年 8 月 18 日(土)	於:東京工業大学
表彰式	平成 19 年 9 月 29 日(土)	於:化学会館

[参加者数各種内訳]

申込者数および参加者数

一次選考	人 数	二次選考	人 数
申込者数	2199	通過者数	61
参加者数	2009	参加者数	57
欠席数	190	欠席数	4

申込方法別参加者数

申込方法	件 数	割 合
F A X	480	23.9%
W e b	680	33.8%
M a i l	849	42.3%

学年別参加者数

学 年	一 次 選 考		二 次 選 考	
	人 数	割 合	人 数	割 合
1 年 生	342	17.0%	3	5.3%
2 年 生	741	36.9%	4	7.0%
3 年 生	926	46.1%	50	87.7%

国公私別参加者数

	一 次 選 考		二 次 選 考	
	人 数	割 合	人 数	割 合
国 立	121	6.0%	3	5.3%
公 立	1179	58.7%	26	45.6%
私 立	709	35.3%	28	49.1%

男女別参加者数

性 別	一 次 選 考		二 次 選 考	
	人 数	割 合	人 数	割 合
男 性	1509	75.1%	55	96.5%
女 性	500	24.9%	2	3.5%

都道府県別参加者数 ※参加者の所属高校の所在地をもとに集計

No.	都道府県名	一次選考 参加者数	二次選考 進出者数	代表候補	No.	都道府県名	一次選考 参加者数	二次選考 進出者数	代表候補
1	北海道	54			25	滋賀県			
2	青森県	55	1		26	京都府	10	1	1
3	岩手県	78	1		27	大阪府	51	4	3
4	宮城県	101	2	2	28	兵庫県	49	4	4
5	秋田県	19			29	奈良県	19		1
6	山形県	9			30	和歌山県	10		
7	福島県	45			31	鳥取県			
8	茨城県	29			32	島根県	19		
9	栃木県	26			33	岡山県	54	2	
10	群馬県	95			34	広島県	32	2	1
11	埼玉県	72			35	山口県	21		
12	千葉県	26	1		36	徳島県	30		
13	東京都	229	15	7	37	香川県	2		
14	神奈川県	34	2	1	38	愛媛県	74	2	
15	新潟県	4			39	高知県	17		
16	富山県	37			40	福岡県	54	1	
17	石川県	62	5		41	佐賀県	19	1	
18	福井県	7	1		42	長崎県	58		
19	山梨県	80	1		43	熊本県	64		
20	長野県	28			44	大分県	11		
21	岐阜県	44			45	宮崎県	55	1	
22	静岡県	39	4	1	46	鹿児島県	41	1	
23	愛知県	111	4	1	47	沖縄県	30	1	
24	三重県	5				合計	2009	57	22

会場別参加者数

No.	会場名	会場詳細	一次選考 参加者数	二次選考 進出者数	代表候補
1	札幌	北海道大学大学院地球環境科学研究院	45		
2	旭川	北海道教育大学旭川校	7		
3	北見	北見工業大学	2		
4	青森	弘前大学理工学部1号館	55	1	
5	岩手	岩手大学 工学部 テクノホール	78	1	
6	宮城	東北大学工学部 共通講義室(青葉山キャンパス)	106	2	2
7	秋田	秋田大学教育文化学部(手形キャンパス)	19		
8	山形	山形大学理学部(小白川キャンパス)	9		
9	福島	福島県立安積高等学校	40		
10	茨城	茨城大学理学部(水戸キャンパス)	30		
11	栃木	宇都宮大学工学部 総合研究棟	25		
12	群馬	群馬大学工学部(桐生キャンパス) 応用化学棟2階	94		
13	埼玉第1	埼玉大学 理学部C棟	20		
14	埼玉第2	早稲田大学本庄キャンパス共通棟	53		
15	千葉	東邦大学理学部V号館(習志野キャンパス)	28	1	1
16	東京第1	日本化学会 化学会館	183	15	5
17	東京第2	東京農工大学工学部(小金井キャンパス)	34	2	1
18	神奈川	横浜国立大学工学部講義棟B-202教室	40		1
19	新潟第1	新潟大学(五十嵐キャンパス)	0		
20	新潟第2	長岡工業高等専門学校	4		
21	山梨	山梨大学(甲府西キャンパス)総合研究棟(Y号館)1階	84	1	
22	松本	信州大学理学部(旭キャンパス)	29		
23	岐阜	岐阜大学工学部	38		
24	恵那	恵那高等学校	6		
25	静岡	静岡大学理学部	39	4	1
26	名古屋	名城大学天白キャンパス 共通講義等北館 N201教室	110	4	1
27	三重	三重大学工学部 分子素材工学科棟	5		
28	富山	富山県立高岡高等学校	37		
29	石川	金沢大学理学部(角間キャンパス)	62	5	
30	福井	福井大学(文京キャンパス)教育地域科学部一号館一階講義室	7	1	
31	京都	京都教育大学	15	1	1
32	大阪	私立大阪星光学院高等学校	121	7	8
33	島根	島根大学 生物資源科学部 1号館2階大会議室	10		
34	岡山	岡山大学理学部(津島キャンパス)	63	2	
35	広島	広島大学(東広島キャンパス)	32	2	1
36	山口	山口大学理学部14番教室(吉田キャンパス)	23		
37	徳島	徳島大学 日亜会館2階 国際交流講義室	33	1	
38	愛媛	愛媛大学工学部4号館	91	2	
39	福岡第1	福岡教育大学 共通講義棟特1教室	34		
40	福岡第2	久留米工業高等専門学校	10		
41	福岡第3	近畿大学産業理工学部(福岡キャンパス)	5	1	
42	佐賀	佐賀大学理工学部9号館(本庄キャンパス)	25	1	
43	長崎第1	長崎大学工学部(文教キャンパス)	57		
44	長崎第2	佐世保工業高等専門学校	1		
45	熊本	熊本大学薬学部	64		
46	大分	大分大学ベンチャービジネスラボラトリーセミナー室	10		
47	宮崎	宮崎大学工学部(木花キャンパス)	53	1	
48	鹿児島	鹿児島大学理学部 1号館104号室(郡元キャンパス)	43	1	
49	沖縄	琉球大学教育学部 4階404号室(千原キャンパス)	30	1	

合計 2009 57 22

参加校一覧

No.	都道府県	国公私	学校名	No.	都道府県	国公私	学校名
1	北海道	公	北海道北見北斗高等学校	41	群馬県	公	群馬県立高崎高等学校
2	北海道	公	北海道岩見沢東高等学校	42	群馬県	国	群馬工業高等専門学校
3	北海道	公	北海道旭川東高等学校	43	群馬県	私	東京農業大学第二高等学校
4	北海道	公	北海道札幌南高等学校	44	群馬県	私	樹徳高等学校
5	北海道	公	北海道札幌西高等学校	45	埼玉県	公	さいたま市立浦和高等学校
6	北海道	私	札幌光星高等学校	46	埼玉県	公	埼玉県立大宮高等学校
7	北海道	私	札幌第一高等学校	47	埼玉県	公	埼玉県立春日部高等学校
8	北海道	私	藤女子高等学校	48	埼玉県	公	埼玉県立浦和第一女子高等学校
9	青森県	公	青森県立五所川原高等学校	49	埼玉県	公	埼玉県立草加高等学校
10	青森県	公	青森県立弘前高等学校	50	埼玉県	公	埼玉県立越谷北高等学校
11	青森県	公	青森県立青森東高等学校	51	埼玉県	私	早稲田大学本庄高等学院
12	岩手県	公	岩手県立盛岡第一高等学校	52	埼玉県	私	栄東高等学校
13	岩手県	公	岩手県立盛岡第三高等学校	53	埼玉県	私	狭山ヶ丘高等学校
14	宮城県	公	宮城県仙台第一高等学校	54	埼玉県	私	立教新座高等学校
15	宮城県	公	宮城県仙台第三高等学校	55	埼玉県	私	聖望学園高等学校
16	宮城県	公	宮城県仙台第二高等学校	56	埼玉県	私	開智高等学校
17	宮城県	公	宮城県第二女子高等学校	57	千葉県	公	千葉市立千葉高等学校
18	宮城県	公	宮城県蔵王高等学校	58	千葉県	公	千葉県立柏中央高等学校
19	宮城県	私	古川学園高等学校	59	千葉県	公	銚子市立銚子西高等学校
20	宮城県	私	秀光中等教育学校	60	千葉県	私	八千代松陰高等学校
21	秋田県	公	秋田県立本荘高等学校	61	千葉県	私	市川高等学校
22	秋田県	公	秋田県立横手高等学校	62	千葉県	私	東邦大学付属東邦高等学校
23	秋田県	公	秋田県立秋田高等学校	63	千葉県	私	渋谷教育学園幕張高等学校
24	山形県	公	山形県立山形南高等学校	64	千葉県	私	芝浦工業大学柏高等学校
25	山形県	公	山形県立山形東高等学校	65	東京都	公	東京都立八王子東高等学校
26	山形県	公	山形県立米沢興譲館高等学校	66	東京都	公	東京都立墨田川高等学校
27	福島県	公	福島県立安積高等学校	67	東京都	公	東京都立小平南高等学校
28	福島県	公	福島県立相馬高等学校	68	東京都	公	東京都立小石川高等学校
29	福島県	国	福島工業高等専門学校	69	東京都	公	東京都立日比谷高等学校
30	茨城県	公	茨城県立水戸第二高等学校	70	東京都	公	東京都立武蔵野北高等学校
31	茨城県	公	茨城県立緑岡高等学校	71	東京都	公	東京都立科学技術高等学校
32	茨城県	国	茨城工業高等専門学校	72	東京都	公	東京都立葛西南高等学校
33	茨城県	私	茨城高等学校	73	東京都	公	東京都立青山高等学校
34	栃木県	公	栃木県立大田原高等学校	74	東京都	国	お茶の水女子大学附属高等学校
35	栃木県	公	栃木県立宇都宮白楊高等学校	75	東京都	国	東京学芸大学附属高等学校
36	栃木県	公	栃木県立栃木女子高等学校	76	東京都	国	東京学芸大学附属高等学校 大泉校舎
37	栃木県	私	佐野日本大学高等学校	77	東京都	国	東京工業大学附属科学技術高等学校
38	栃木県	私	那須高原海城高等学校	78	東京都	国	東京工業高等専門学校
39	群馬県	公	群馬県立桐生高等学校	79	東京都	国	筑波大学附属駒場高等学校
40	群馬県	公	群馬県立渋川高等学校	80	東京都	私	光塩女子学院高等学校

No.	都道府県	国公私	学校名	No.	都道府県	国公私	学校名
81	東京都	私	創価高等学校	121	神奈川県	私	洗足学園高等学校
82	東京都	私	吉祥女子高等学校	122	神奈川県	私	湘南白百合学園高等学校
83	東京都	私	多摩大学附属聖ヶ丘高等学校	123	神奈川県	私	逗子開成高等学校
84	東京都	私	帝京高等学校	124	新潟県	国	長岡工業高等専門学校
85	東京都	私	攻玉社高等学校	125	富山県	公	富山県立富山中部高等学校
86	東京都	私	早稲田大学高等学院	126	富山県	公	富山県立高岡高等学校
87	東京都	私	早稲田高等学校	127	石川県	公	石川県立七尾高等学校
88	東京都	私	明治大学付属中野高等学校	128	石川県	公	石川県立小松高等学校
89	東京都	私	明治学院高等学校	129	石川県	公	石川県立金沢泉丘高等学校
90	東京都	私	星美学園高等学校	130	石川県	国	金沢大学教育学部附属高等学校
91	東京都	私	本郷高等学校	131	福井県	公	福井県立若狭高等学校
92	東京都	私	東京女学館高等学校	132	福井県	公	福井県立藤島高等学校
93	東京都	私	東京純心女子高等学校	133	福井県	公	福井県立高志高等学校
94	東京都	私	桐朋女子高等学校	134	福井県	国	福井工業高等専門学校
95	東京都	私	桜蔭高等学校	135	山梨県	公	山梨県立甲府南高等学校
96	東京都	私	正則学園高等学校	136	山梨県	公	山梨県立甲府西高等学校
97	東京都	私	武蔵工業大学付属高等学校	137	山梨県	公	山梨県立甲陵高等学校
98	東京都	私	淑徳巣鴨高等学校	138	山梨県	公	山梨県立都留高等学校
99	東京都	私	渋谷教育学園渋谷高等学校	139	山梨県	公	山梨県立韭崎高等学校
100	東京都	私	獨協高等学校	140	山梨県	私	駿台甲府高等学校
101	東京都	私	穎明館高等学校	141	長野県	公	長野県大町高等学校
102	東京都	私	立教女学院高等学校	142	長野県	公	長野県更級農業高等学校
103	東京都	私	立教池袋高等学校	143	長野県	公	長野県松本深志高等学校
104	東京都	私	芝浦工業大学高等学校	144	長野県	公	長野県松本県ヶ丘高等学校
105	東京都	私	開成高等学校	145	長野県	公	長野県豊科高等学校
106	東京都	私	順天高等学校	146	長野県	公	長野県飯山高等学校
107	東京都	私	駒場東邦高等学校	147	長野県	私	長野日本大学高等学校
108	東京都	私	麻布高等学校	148	岐阜県	公	岐阜県立加納高等学校
109	神奈川県	公	神奈川県立多摩高等学校	149	岐阜県	公	岐阜県立各務原西高等学校
110	神奈川県	公	神奈川県立大和高等学校	150	岐阜県	公	岐阜県立古城高等学校
111	神奈川県	公	神奈川県立希望ヶ丘高等学校	151	岐阜県	公	岐阜県立大垣北高等学校
112	神奈川県	公	神奈川県立柏陽高等学校	152	岐阜県	公	岐阜県立岐山高等学校
113	神奈川県	公	神奈川県立横浜翠嵐高等学校	153	岐阜県	公	岐阜県立岐阜高等学校
114	神奈川県	公	神奈川県立西湘高等学校	154	岐阜県	公	岐阜県立恵那高等学校
115	神奈川県	私	北鎌倉女子学園高等学校	155	静岡県	公	静岡県立浜松西高等学校
116	神奈川県	私	山手学院高等学校	156	静岡県	公	静岡県立清水東高等学校
117	神奈川県	私	捜真女学校高等学部	157	静岡県	公	静岡県立磐田南高等学校
118	神奈川県	私	栄光学園高等学校	158	静岡県	国	沼津工業高等専門学校
119	神奈川県	私	桐蔭学園中等教育学校	159	愛知県	公	名古屋市立向陽高等学校
120	神奈川県	私	横浜共立学園高等学校	160	愛知県	公	愛知県立一宮高等学校

No.	都道府県	国公私	学校名	No.	都道府県	国公私	学校名
161	愛知県	公	愛知県立五条高等学校	201	兵庫県	公	兵庫県立須磨東高等学校
162	愛知県	公	愛知県立刈谷高等学校	202	兵庫県	公	神戸市立工業高等専門学校
163	愛知県	公	愛知県立千種高等学校	203	兵庫県	私	六甲高等学校
164	愛知県	公	愛知県立安城高等学校	204	兵庫県	私	武庫川女子大学附属高等学校
165	愛知県	公	愛知県立岡崎西高等学校	205	兵庫県	私	滝川高等学校
166	愛知県	公	愛知県立岡崎高等学校	206	兵庫県	私	灘高等学校
167	愛知県	公	愛知県立明和高等学校	207	兵庫県	私	甲陽学院高等学校
168	愛知県	公	愛知県立昭和高等学校	208	兵庫県	私	白陵高等学校
169	愛知県	公	愛知県立時習館高等学校	209	奈良県	国	奈良女子大学附属中等教育学校
170	愛知県	国	名古屋大学教育学部附属高等学校	210	奈良県	国	奈良工業高等専門学校
171	愛知県	国	愛知教育大学附属高等学校	211	奈良県	私	奈良学園高等学校
172	愛知県	私	名城大学附属高等学校	212	奈良県	私	帝塚山高等学校
173	愛知県	私	岡崎城西高等学校	213	奈良県	私	東大寺学園高等学校
174	愛知県	私	東海高等学校	214	和歌山県	公	和歌山県立向陽高等学校
175	愛知県	私	滝高等学校	215	和歌山県	私	和歌山信愛女子短期大学附属高等学校
176	三重県	公	三重県立四日市高等学校	216	和歌山県	私	智辯学園和歌山高等学校
177	三重県	公	三重県立津高等学校	217	島根県	公	島根県立松江北高等学校
178	三重県	私	高田高等学校	218	島根県	公	島根県立松江東高等学校
179	京都府	公	京都府立亀岡高等学校	219	島根県	公	島根県立益田高等学校
180	京都府	公	京都府立桃山高等学校	220	島根県	私	開星高等学校
181	京都府	私	洛南高等学校	221	岡山県	公	岡山県立倉敷南高等学校
182	大阪府	公	大阪府立住吉高等学校	222	岡山県	公	岡山県立倉敷天城高等学校
183	大阪府	公	大阪府立北野高等学校	223	岡山県	公	岡山県立岡山一宮高等学校
184	大阪府	公	大阪府立千里高等学校	224	岡山県	公	岡山県立岡山操山高等学校
185	大阪府	公	大阪府立岸和田高等学校	225	岡山県	公	岡山県立岡山朝日高等学校
186	大阪府	公	大阪府立工業高等専門学校	226	岡山県	公	岡山県立玉島高等学校
187	大阪府	公	大阪府立生野高等学校	227	岡山県	公	岡山県立玉野光南高等学校
188	大阪府	公	大阪府立高津高等学校	228	岡山県	私	岡山白陵高等学校
189	大阪府	国	大阪教育大学附属高等学校 池田校舎	229	広島県	公	広島県立広島国泰寺高等学校
190	大阪府	私	千里国際学園高等部	230	広島県	公	広島県立広島高等学校
191	大阪府	私	大阪星光学院高等学校	231	広島県	私	広島学院高等学校
192	大阪府	私	金蘭千里高等学校	232	山口県	公	山口県立宇部高等学校
193	大阪府	私	関西創価高等学校	233	山口県	公	山口県立山口高等学校
194	兵庫県	公	兵庫県立八鹿高等学校	234	山口県	公	山口県立德山高等学校
195	兵庫県	公	兵庫県立夢野台高等学校	235	徳島県	公	徳島県立城南高等学校
196	兵庫県	公	兵庫県立宝塚西高等学校	236	徳島県	国	阿南工業高等専門学校
197	兵庫県	公	兵庫県立洲本高等学校	237	香川県	公	香川県立高松高等学校
198	兵庫県	公	兵庫県立神戸高等学校	238	愛媛県	公	愛媛県立今治西高等学校
199	兵庫県	公	兵庫県立篠山鳳鳴高等学校	239	愛媛県	公	愛媛県立八幡浜高等学校
200	兵庫県	公	兵庫県立長田高等学校	240	愛媛県	公	愛媛県立大洲高等学校

No.	都道府県	国公私	学校名	No.	都道府県	国公私	学校名
241	愛媛県	公	愛媛県立松山北高等学校	281	熊本県	公	熊本県立菊池高等学校
242	愛媛県	公	愛媛県立松山南高等学校	282	熊本県	公	熊本県立阿蘇高等学校
243	愛媛県	公	愛媛県立松山東高等学校	283	熊本県	私	熊本学園大学付属高等学校
244	愛媛県	公	愛媛県立松山西中等教育学校	284	大分県	公	大分県立大分舞鶴高等学校
245	愛媛県	公	愛媛県立西条高等学校	285	大分県	公	大分県立日田高等学校
246	愛媛県	国	新居浜工業高等専門学校	286	大分県	国	大分工業高等専門学校
247	高知県	私	土佐女子高等学校	287	大分県	私	岩田高等学校
248	福岡県	公	福岡県立三池高等学校	288	宮崎県	公	宮崎県立宮崎北高等学校
249	福岡県	公	福岡県立修猷館高等学校	289	宮崎県	公	宮崎県立宮崎南高等学校
250	福岡県	公	福岡県立博多青松高等学校	290	宮崎県	公	宮崎県立宮崎大宮高等学校
251	福岡県	公	福岡県立嘉徳高等学校	291	宮崎県	公	宮崎県立宮崎西高等学校
252	福岡県	公	福岡県立小倉工業高等学校	292	宮崎県	公	宮崎県立小林高等学校
253	福岡県	公	福岡県立山門高等学校	293	宮崎県	公	宮崎県立都城西高等学校
254	福岡県	公	福岡県立新宮高等学校	294	宮崎県	私	鵬翔高等学校
255	福岡県	公	福岡県立福岡高等学校	295	鹿児島県	私	修学館高等学校
256	福岡県	公	福岡県立筑前高等学校	296	鹿児島県	私	志学館高等部
257	福岡県	公	福岡県立鞍手高等学校	297	鹿児島県	私	池田学園池田高等学校
258	福岡県	公	福岡県立香住丘高等学校	298	沖縄県	公	沖縄県立向陽高等学校
259	福岡県	国	久留米工業高等専門学校	299	沖縄県	公	沖縄県立開邦高等学校
260	福岡県	国	北九州工業高等専門学校	300	沖縄県	私	昭和薬科大学附属高等学校
261	福岡県	私	久留米大学附設高等学校				
262	福岡県	私	敬愛高等学校				
263	福岡県	私	明治学園高等学校				
264	福岡県	私	東福岡高等学校				
265	福岡県	私	福岡大学附属大濠高等学校				
266	佐賀県	公	佐賀県立佐賀北高等学校				
267	佐賀県	公	佐賀県立佐賀西高等学校				
268	佐賀県	公	佐賀県立武雄高等学校				
269	佐賀県	公	佐賀県立致遠館高等学校				
270	長崎県	公	長崎県立佐世保北高等学校				
271	長崎県	公	長崎県立諫早高等学校				
272	長崎県	公	長崎県立長崎北陽台高等学校				
273	長崎県	公	長崎県立長崎東高等学校				
274	長崎県	公	長崎県立長崎西高等学校				
275	長崎県	私	青雲高等学校				
276	熊本県	公	熊本県立天草高等学校				
277	熊本県	公	熊本県立済々黌高等学校				
278	熊本県	公	熊本県立熊本北高等学校				
279	熊本県	公	熊本県立玉名高等学校				
280	熊本県	公	熊本県立第二高等学校				



募集チラシ

[二次選考合宿]

日時 平成 19 年 8 月 18 日(土)・19 日(日)
会場 実験会場：東京工業大学大岡山キャンパス
講演会場：化学会館

スケジュール

平成 19 年 8 月 18 日(土)

11:00～12:00	参加者受付	於：東工大西 3 号館エントランス
12:00～12:15	試験に関する説明	於：東工大西 2 号館W241
12:30～16:30	二次選考試験(実験)	於：東工大西 3 号館化学実験室
16:45～17:15	合宿に関する説明	於：東工大西 2 号館W241
17:30～19:00	懇親会	於：百年記念館 4 階角笛
19:15～20:00	宿泊場所へ移動(大岡山→飯田橋)	
～21:00	チェックイン	於：東京国際ホテル 18 階
～23:00	消灯	於：東京国際ホテル

平成 19 年 8 月 19 日(日)

07:00～08:30	朝食	於：東京国際ホテル 19 階
08:45～09:15	チェックアウト	於：東京国際ホテル 19 階
～09:55	化学会館へ移動(飯田橋→御茶ノ水)	
10:00～11:00	二次選考解説会	於：化学会館 7 階ホール 講師：神谷 信行 先生(横浜国立大学)
11:00～12:00	講演会	於：化学会館 7 階ホール 講師：中村 栄一 先生(東京大学大学院理学系研究科) 演題：ひとつの有機分子のふるまいを見た！
12:00～12:55	昼食・アンケート記入	於：化学会館 6 階会議室
13:00～14:00	結果発表	於：化学会館 7 階ホール
14:00～	解散	



懇親会での集合写真



講演会

[表彰式]

日時 平成 19 年 9 月 29 日(土)

会場 日本化学会

式次第



「全国高校化学グランプリ2007」表彰式
「第39回国際化学オリンピックロシア大会」参加報告会
「第40回国際化学オリンピックハンガリー大会」代表候補認定式

式次第

13:00～ 開場

第1部 「全国高校化学グランプリ2007」表彰式

- 13:30～13:40 記念撮影
- 13:40～13:45 開会 来賓・主催者紹介
- 13:45～14:05 主催者・来賓挨拶
「夢・化学-21」委員会 主催者挨拶: 日本化学会会長 藤嶋 昭
来賓挨拶: 文部科学省科学技術・学術政策局基盤政策課企画官 佐々木 亨 様
経済産業省製造産業局化学課長 山根 啓 様
独立行政法人科学技術振興機構 理数学習支援部長 行松 泰弘 様
- 14:05～14:15 表彰:大賞7名 受賞の感想
プレゼンター: 日本化学工業協会専務理事 西出 徹雄
日本化学会会長 藤嶋 昭
化学工学会会長 三浦 孝一
新化学発展協会総務部長 梅原 幸治
日本化学会化学教育協議会議長 井上 祥平
- 14:15～14:25 表彰:金賞受賞者(出席者14名)
プレゼンター: 化学グランプリ・オリンピック委員会委員長 杉村 秀幸
- 14:25～14:40 「全国高校化学グランプリ2007」講評
スピーカー: 化学グランプリ・オリンピック委員会委員長 杉村 秀幸
- 14:40～14:45 休憩

第2部 「第39回国際化学オリンピックロシア大会」参加報告会

- 14:45～15:00 ロシア大会概要について
スピーカー: ヘッドメンター(早稲田大学教授) 菅原 義之
- 15:00～15:15 代表生徒のメダル披露・ロシア大会報告

第3部 「第40回国際化学オリンピックハンガリー大会」代表候補認定式

- 15:15～15:30 代表候補認定:22名のうち17名出席 感想・意気込み
プレゼンター: 化学グランプリ・オリンピック委員会オリンピックWG 主査 伊藤 真人
- 15:30 閉会
- 15:35～16:35 懇親会(5階会議室)
乾杯挨拶: 日本化学会常務理事 太田 暉人

2-2 選考結果

2-2-1 入賞者一覧

大賞

田中 成	開成高等学校(東京都)	3年
館農 悠紀	石川県立七尾高等学校(石川県)	3年
奥田 貴洋	愛知県立時習館高等学校(愛知県)	3年
山中 一平	大阪府立高津高等学校(大阪府)	3年
小林 佑哉	東海高等学校(愛知県)	3年
武田 大典	岡山白陵高等学校(岡山県)	3年
吉田 瑛二	麻布高等学校(東京都)	3年

金賞

天野 俊太郎	筑波大学附属駒場高等学校(東京都)	1年
松崎 黎	市川高等学校(千葉県)	3年
西山 美奈子	創価高等学校(東京都)	3年
根本 夏紀	静岡県立清水東高等学校(静岡県)	3年
水野 泰孝	静岡県立磐田南高等学校(静岡県)	3年
越膳 航平	岩手県立盛岡第一高等学校(岩手県)	3年
石神 宥真	千里国際学園高等部(大阪府)	2年
後藤 弘樹	愛知県立岡崎高等学校(愛知県)	3年
谷内 稜	神奈川県立多摩高等学校(神奈川県)	3年
堀川 遼太	開成高等学校(東京都)	3年
向吉 恵	志學館高等部(鹿児島県)	3年
芦田 裕也	石川県立金沢泉丘高等学校(石川県)	3年
佐藤 基	静岡県立清水東高等学校(静岡県)	3年
赤堀 将太郎	洛南高等学校(京都府)	2年



表彰式の集合写真(大賞・金賞受賞者)

銀 賞

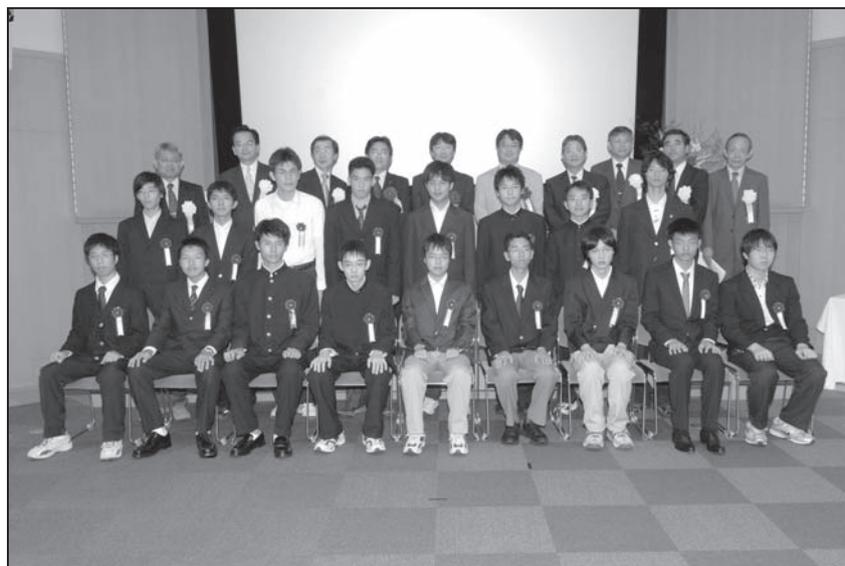
川上 剛明	創価高等学校(東京都)	3年
松田 孟留	早稲田高等学校(東京都)	3年
丸山 満久	創価高等学校(東京都)	3年
本山 雄一	甲陽学院高等学校(兵庫県)	3年
小松 尚登	開成高等学校(東京都)	3年
小澤 直也	駒場東邦高等学校(東京都)	1年
堀内 淳矢	山梨県立甲府南高等学校(山梨県)	3年
曾 弘博	開成高等学校(東京都)	3年
大堀 龍一	栄光学園高等学校(神奈川県)	3年
安本 周平	新居浜工業高等専門学校(愛媛県)	3年
鈴木 翔	創価高等学校(東京都)	3年
塚田 滉	甲陽学院高等学校(兵庫県)	1年
大城 真太郎	昭和薬科大学附属高等学校(沖縄県)	3年
力宗 真寛	兵庫県立洲本高等学校(兵庫県)	3年
改田 葉瑠緒	東京工業大学附属科学技術高等学校(東京都)	3年
西川 哲生	石川県立金沢泉丘高等学校(石川県)	3年
前田 峻宏	大阪星光学院高等学校(大阪府)	3年
松山 和正	広島学院高等学校(広島県)	3年
野田 芳英	宮城県仙台第一高等学校(宮城県)	3年

銅 賞

富田 恭平	愛媛県立今治西高等学校(愛媛県)	3年
田上 兼輔	宮崎県立宮崎北高等学校(宮崎県)	3年
安川 純平	広島学院高等学校(広島県)	3年
川上 優貴	福井県立藤島高等学校(福井県)	3年
高木 俊浩	愛知県立一宮高等学校(愛知県)	3年
綿谷 朋大	開成高等学校(東京都)	3年
加藤 晃太郎	静岡県立浜松西高等学校(静岡県)	2年
上田 孝弘	石川県立小松高等学校(石川県)	3年
有馬 悠也	福岡県立嘉穂高等学校(福岡県)	3年
晴永 祐輔	佐賀県立佐賀西高等学校(佐賀県)	3年
結城 翼	古川学園高等学校(宮城県)	3年
道本 泰一郎	石川県立小松高等学校(石川県)	3年
高山 遼太郎	創価高等学校(東京都)	3年
東 星一	灘高等学校(兵庫県)	2年
木村 悠紀	青森県立弘前高等学校(青森県)	3年
村上 実	大阪府立住吉高等学校(大阪府)	3年
井川 高輔	岡山県立玉島高等学校(岡山県)	3年

2-2-2 第40回国際化学オリンピック代表候補一覧

赤堀 将太郎	洛南高等学校(京都府)	2年
東 星一	灘高等学校(兵庫県)	2年
天野 俊太郎	筑波大学附属駒場高等学校(東京都)	1年
安崎 遼路	大阪府立工業高等専門学校(大阪府)	2年
石神 宥真	千里国際学園高等部(大阪府)	2年
今村 志郎	灘高等学校(兵庫県)	1年
海老沼 五百理	筑波大学附属駒場高等学校(東京都)	2年
大瀧 和紀	麻布高等学校(東京都)	2年
小澤 直也	駒場東邦高等学校(東京都)	1年
加藤 晃太郎	静岡県立浜松西高等学校(静岡県)	2年
来見田 遥一	神奈川県立多摩高等学校(神奈川県)	2年
鈴木 裕太	宮城県仙台第二高等学校(宮城県)	2年
塚田 滉	甲陽学院高等学校(兵庫県)	1年
遠山 龍	麻布高等学校(東京都)	2年
中條 淳博	東大寺学園高等学校(奈良県)	1年
中田 拓見	広島学院高等学校(広島県)	2年
新家 和真	愛知県立岡崎高等学校(愛知県)	2年
日置 壮一郎	宮城県仙台第二高等学校(宮城県)	2年
福井 識人	灘高等学校(兵庫県)	2年
細見 拓郎	大阪府立生野高等学校(大阪府)	2年
松川 滉	駒場東邦高等学校(東京都)	2年
矢部 顕大	開成高等学校(東京都)	2年



認定式の集合写真(第40回国際化学オリンピック代表候補)

2-3 大賞受賞者の声

3 度の高校化学グランプリに参加して

開成高等学校 3年 田中 成

一昨年も大賞（当時は優秀賞）の受賞に際して感想を述べさせて頂く機会があった。私と化学の繋がりについては大部分そこで述べてしまったので、まずはそれ以降の、2度のオリンピック等の経験に触れたい。

2度のオリンピックは自分にとって極めて重要な経験になった。少なく見積もっても、エキスカージョン等の交流を通じて様々な人間や文化が世界レベルでは存在しているということをもっと感じ、試験や準備問題を通じて化学にも様々な考察の方法や実験の手法が存在するということを実際に知ることが出来た、といえるだろう。このことが、私自身のかげがえのない経験として将来役に立つことを期待している。

そのオリンピックに出場するには、グランプリである程度の成績を収める必要がある。一昨年の成績にもかかわらず、昨年は銀賞であった。オリンピック出場がかかっているわけでもなく、また受験を半年後に控えた時期でもあるために、一度オリンピックに出た人間は普通殆どやらないようである「3度目の挑戦」、これをわざわざすることに決めたのは、そこにも理由がある。いわば、リベンジだ。

しかし、単なるリベンジというわけでもない。グランプリでもオリンピック同様、一定時間内に決められた化学の課題をこなすことになる。勿論将来的にもそのような機会は多数あるだろうし、最終的には課題も時間制限もない「研究」をすることになるのだろうとは思う。そうはいっても、このような機会は多いほうがいい。高校生の内に、もう一回そのような機会があってもいいのではないかと。そう思い、今年も化学グランプリを受けた。

それだけに、今年も大賞を取れたことはとても嬉しい。今年もグランプリを受けてよかった。大賞のことだけではなく、実験等を通して色々な経験をし、色々な人の話を聞いた、といったことからそう感じるのである。

私は小学生の時には既に化学が好きだった。同様に化学が好きな生徒は多いと思われる。しかし、その興味を存分に発揮する機会に恵まれない人も、やはり多いのではないだろうか。私は運良くこのグランプリやオリンピックに出会うことが出来たが、もっと多くの人に知ってもらい必要があるだろう。「興味」という最上の才能は、必ずしも既に芽が出ているとは限らない。発芽には水が必要なように、または水素と酸素が水になるには火などが必要であるように、才能の発芽にもやはりきっかけが必要である。この化学グランプリがきっかけとなって、その秘められた才能が発芽するかもしれない。より多くの人々が化学グランプリに挑戦して化学に興味を持ってくれば、幸いの極みである。

全国高校化学グランプリ2007に参加して

石川県立七尾高等学校 3年 館農 悠紀

今回の化学グランプリで自分が大賞を頂けたこと、非常にうれしく思います。化学グランプリは今年で3度目の参加で、1年生のときは予選落ち、2年生のときは銅賞だったので、「最後の年に優秀賞をとってノートパソコンをゲットしたい!」、とっていました。しかし、優秀賞が無くなり「優秀賞をとる」という目的は結局達成できなかったわけですが、かわりに大賞を頂くことができ、パソコンも頂けるので、満足しています。

ところで、今年から化学グランプリの2次選考は2日間の合宿形式になったようで。去年参加したときは1日、それも実験と懇親会だけ、という日程だったので、他の参加者と話をする機会はあまりありませんでした。私はその日のうちに帰らなければならなかったため、懇親会にも参加できませんでしたから。今年の2日間の日程では、懇親会にも参加でき、また私の部屋は10人部屋だったこともあって、宿泊場所でも他の参加者との交流の機会がもてました。2日目の講演会では東京大学の中村栄一先生の研究に関する貴重なお話も伺うことができ、本当に充実した合宿だったと思います。段落の最初に「今年から」と書いてはみたものの、実際、私は「今年から」になるのか「今年だけ」になるのか分からないのですが、個人的にはこれからも合宿形式であることを望みます。

化学グランプリに参加し、大賞を頂くような私ですが、実は将来化学に関係のある仕事に就くかどうか、全く分かりません、大いに惹かれるけれど暗中模索なのです。しかし化学グランプリを通して、化学の面白さ・奥深さを知ることができ、全国の高校生と意見交換をすることもできました。化学グランプリを通して関わった友達との会話、努力したこと、面白い現象に出くわしたこと、きっと進路決定の参考になると思います。

最後に、いろんな方に一言。まず、化学グランプリに関してお世話になった先生方や家族、ありがとうございます。グランプリを受けた仲間達、またどこかで会おう。そして後輩達、化学が好きな人、進路について悩んでいる人、全国に友達を作りたい人、国際大会に出場したい人、ノートパソコンが欲しい人、とにかく暇な人。とりあえず化学グランプリに参加してみませんか？参加は無料です。(笑)

全国高校化学グランプリ 2007 を振り返って

愛知県立時習館高等学校 3年 奥田 貴洋

今回、一次選考を通過しただけでなく、大賞までもいただいてしまって、信じられない気持ちでいっぱいです。合宿の夜、ホステルで目覚めて活動を始める夢を見ていたので、大賞受賞者として自分の名前を聞いたときは、まだ長い夢を見ているのだと思ってしまいました。今は「間違いでした」という電話がかかってくるのではないかと心配しています。

全国高校化学グランプリの存在は今年初めて知ったのですが、化学の中間考査の点数が思わしくなかったため受けるのはやめようと思っていました。しかし、友人が「暇だったら化学グランプリ出ない？」と誘ってくれたので、皆で受けるなら、と思って軽い気持ちで参加することになりました。一次選考は「各大問に同じ時間をかける」という方針で臨んだため、試験中は時間をかけないように作業に没頭する他なかったのですが、後で問題を読み返してみると、授業では「これはこうなるものなんだ」という説明だったものが問題文中では丁寧に説明されていて感銘を受けました。

そんな面白い経験もできたし、電卓ももらえたし、と満足していた頃でした——二次選考の案内が届いたのは。まず驚き、次に素直に嬉しく思い、そして心配になりました。というのは、化学実験なんてイベントは自分の生涯で数えるほどしかなく、その上それを一人でやり通したことなど一度もなかったからです。実際、本番で考えていたことは専ら「怪我をしないように」ということでした。実験が無事に終わってはじめて、実際にやったかどうか疑わしい実験の結果から結論を導き出すのと違って、自分で実験をして考察するというのはとても新鮮で楽しいものだなあ、と思いつく余裕ができたほどです。そんな意識で実験をしていたので、二次選考であんな高得点を得ることができたとは、未だに驚いています。

将来の夢は、エンジニアになることだったのですが、最近、数学や物理にも興味があり、更にこの経験が化学という選択肢を付け加えてくれました。そのためにも、まずは大学受験に向けて勉強しなければならないのですが。

最後に、運営のために尽力して下さった関係者の方々、化学グランプリに誘ってくれた K さん、お盆だというのにわざわざ二次選考の練習に付き合ってく下さった J 先生、その他支えて下さった全ての方々、ありがとうございます。それと、この文章を最後まで読んで下さった将来の化学グランプリの挑戦者にも、お礼を兼ねてメッセージを——化学グランプリには、定期試験や模擬試験では経験できない面白さがあります。皆が言うことですが、一次選考に参加するだけでも十分価値があると思います。自分の知らない世界を垣間見るつもりで、ぜひ、頑張ってきてください！

全国高校化学グランプリ2007に参加して

大阪府立高津高等学校 3年 山中 一平

今回の化学グランプリで大賞というすばらしい賞をいただけたことは大変嬉しく思います。しかし、発表の瞬間に感じたのは喜びよりもむしろ「まさか」という驚きでした。

私が化学グランプリに参加したきっかけは、学校の化学部の先生に勧められたことでした。元々化学は好きだったので、軽い気持ちで参加を決めました。しかし、一次選考の過去問を見た瞬間には、こんな問題が解けるのか、と思いました。けれども、そんなことを思いつつとりあえず問題を読み進めていくと、全く知らない化学的現象には詳しい説明がついていて、また基本的な知識だけで解ける問題もあり、全然歯が立たないというわけではないと分かりました。そうは言ってもいくら考えても分からない問題もありましたが、全体的に知識を問うのではなくじっくり考えさせる問題だと思います。一次選考の本番ではやはり問題を読んで理解するのに時間がかかり、時間が足りなくなっていました。

二次選考では、「ダニエル電池」という化学の教科書にも載っている比較的身近な事柄から出題されたことが意外でした。自分で実験方法を考えて考察をする、という作業を、しかも制限時間内にするということは大変でしたが楽しい経験でもありました。また、二次選考の時点では学校でまだ有機化学をほとんど習っていなかったもので、有機化学の問題ではないと分かったときには、心の中で喜びの声を上げました。

今回の化学グランプリの中で特に印象に残っているのは、二次選考での合宿です。合宿の前には、周りの人が全くの初対面で、しかも違う土地から来た人がほとんどなので不安もありました。でも、終わってみれば、そんな色々な人と過ごせたことは、とてもいい経験になったと思います。宿泊先での部屋は一番大きい十人部屋で、さらに全員3年生だったので、受験の話もしました。夜にはトランプで盛り上がり、初対面ではあっても本当に楽しい時間を過ごすことができました。合宿が終わるころには、もう1泊出来たらいいのになあ、と思っているほどでした。

将来の進路については、化学以外にも興味がありまだ迷っているのですが、今回の化学グランプリに参加したことは進路について考える上でとてもいい刺激になったと思います。後輩の皆さんも、是非この貴重な機会を逃さないで下さい。

最後になりましたが、このような貴重な体験をする機会を与えてくださった大会関係者の方々、そして化学部顧問の先生にお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

全国高校化学グランプリに参加して

東海高校 3年 小林 佑哉

夢にまで見た化学グランプリの 2 次試験。1 次試験を通過した証の、勲章のような白衣を着ただけで飛び上がりそうな満足感があった。結果「大賞」を受賞できたのは、この緊張感のおかげだったかも知れない。学校に受賞の報告をした時、先生方の喜びの声に嬉しさが倍増した(感謝)。実験経験が限りなくゼロに近い僕は、まず何から始めようか…と、暫く立ち竦んでしまった。試験監督さんの定位置が僕の真横という絶好のロケーションで、更に緊張感は一ピークに達した(途中、廃液溜のビーカーを満タンにしてしまい「もうそろそろ捨ててきて頂戴な」と言われる始末)。深呼吸して、電池というなじみのある(?)題材に気を取り直し、ようやく溶液の調整を開始した(素朴な事ながら、ホールピペットではなく駒込ピペットで量り取るのが結構違和感があり難しかった)。とはいえ、器具の扱いに慣れると実験そのものに集中でき、「わお!?水と硫酸ナトリウムじゃ、こんなに違うのか!!」などと、自分のデータを疑いたくなるようなたくさんの不思議な発見があり楽しかった。化学の本質に近づけた気分(?)になれた。納得のいかないデータに対してはとことんやり直しをし、追加試薬を頂戴するなど、真横の試験監督さんには結局すっかりお世話になった。実験をやり終えた充足感からか、気が付くと 4 時間があっという間だった。そして、実験後の合宿!!とかく僕はイベントが大好きで、友達作って、お食事をして、夜を満喫するのだ〜、と東京に行く前から楽しみにしていた。実際、ホテルでもお互いに刺激を受けながら過ごすことができ、最後はランプに花を咲かせていた(その途中でも化学の話に夢中になったりするところが、さすが化学グランプリだったが)。夜 11 時に本当に部屋の電気が落とされてしまった時、夜遅くまでベッドの枕下灯に頼って頑張り続けていたのは僕たちの部屋だけであっただろうか(笑)。

2 日目は中村先生の大変興味深い講演があった。これから論文にするという最新のテーマだそうで、今化学の最先端にいるんや〜と思うとプチ化学者気分であった。余談だが中村先生のフルートが大好きだと言う言葉に、ピアノが大好きな僕はちょっと親近感がわき緊張がほぐれた。将来はのんびりと研究ができたらなあ、と思っている(まずはそのために受験があるのかあ…大変だ(笑))。今回実際に実験をして、ますますその気持ちが固まった。集中した姿勢で一つのことに取り組むという作業そのものがプラスになったと思う。

化学グランプリの皆様、ありがとうございました。

全国高校化学グランプリ2007に参加して

岡山白陵高等学校3年 武田 大典

この度初参加にもかかわらず、大賞というすばらしい賞をいただき、本当に嬉しく思っています。一次試験では、熱エネルギーの問題とラジカルの問題が難しく、二次に行けたら奇跡だな、と思っていました。しかし運良く二次に進むことができ、一次と違って楽しく試験に向かうことができ、その結果が『大賞』だなんて夢のようです。高校生活最後の思い出に最高のプレゼントをいただき、大変感激しています。

化学グランプリを知ったのは去年の12月頃、先生が声を掛けてくださったからで、全国の高校生の中で化学の力が試せるのなら、と思い参加を決意しました。対策として過去問をやっていくうちに、方対数グラフやモル伝導率など、高校の教科書レベルでは出てこない用語が出てきて一瞬怯みました。しかし問題の説明が丁寧だったため、解らないと投げ出すことなく問題に向き合うことができました。

二次ではダニエル電池の起電力についての考察を問われたのですが、起電力がなくなるためにはイオンの濃度差が大きくなければいけない（十の何十乗単位）との答えになり、電池の反応は鋭敏だとかなり驚きました。また実験中に、純水が何度も足らなくなったり、水溶液の調製に何度も失敗したり…。グランプリが終わった今となっては、すべてがよい思い出です。

僕は『目標を達成できるだけの学力をつけるように！』と教えられ、将来どんな分野に進もうかと以前からいろいろと考えていました。化学だけでなく科学全般が好きで、将来は研究者になりたいと考えていたので、その第一歩として化学グランプリに出会い、参加できたことは進路を決めるうえでプラスになったと思います。次は大学でいろいろな分野を広く学び、第二歩、三歩そして目標の達成に向けて頑張ります。

これから化学グランプリに出ようと考えている皆さんへ。化学グランプリは知識量を問う大会ではありません。問題にはきちんと説明がついているので、よく読んで化学的に思考していけば必ず解けるようになっていくと思います。化学が好きなら恐れず参加してみてください。

最後に、このような素晴らしい機会を与えてくださった日本化学会をはじめとする関係者の皆様に感謝申し上げます。また学校でいろいろとご指導くださった先生方、ありがとうございました。

全国高校化学グランプリ 2007 に参加して

麻布高等学校 3年 吉田 瑛二

優秀賞改め大賞、フランス語でグランプリ。大会名そのままのマーベラスな賞を頂き、ジュラルミンが金になったくらい($\text{Al} + \text{Cu} \rightarrow \text{Au} + \text{Cl}$)の驚きと喜びで沸いています。そして、参加者大幅増の 2000 人の中から大賞に選ばれたことを誇りに思います。

化学グランプリは今年から合宿形式ということで、単なる学力コンテストにとどまらない充実したものでした。全国から集まった同好の士と長い懇親の時間が持てましたし、中村教授による有機分子の直接観察の講演は非常に有意義でした。しかし、講演の中で意外に印象的だったのは「予算が出れば顕微鏡を改造できるのですが」という冗談交じりの言葉、研究者として避けられない研究費の問題です。世界に注目される大きな成果を挙げた研究者でも、全て思い通りに研究ができる訳ではないということに、将来への漠然とした不安を覚えます。

問題に関して、一次選考ではトロピノンの全合成が一番面白かったと思います。この複雑な化合物を高収率で得る手順は鮮やかという他ありません。有機合成の研究は活発で、タキソールという更に複雑な分子やナノプシアンという人型分子も作られているようです。試験問題は高校化学で触れることのない分野ばかりですが、問題文と手持ちの知識で考えながら解け、新たに化学の面白さを実感しました。

二次選考では高校化学お馴染みのダニエル電池を題材とした問題が課されました。実験操作自体は大して手間の要らない簡単なものでしたが、難しいのはデータの考察、そしてそれを基にした試料濃度の決定です。出題の意図が明確で、よく考えさせる化学グランプリらしい内容だったと思います。

進路ですが、化学か物理、あるいは化学っぽい生物のどれかには関わりたいと考えています。また、基礎科学よりも応用科学に魅力を感じているので、何かしら社会に直接役に立つものを創れば、と思います。具体的に今注目しているのは、化学分野ではカーボンナノチューブ、物理分野では宇宙太陽光発電、生物分野では神経工学、といったところでしょうか。まだ SF っぽい感じもしますが、21 世紀中には実用化されるはずです。まさに夢・化学-21 と言って良いでしょう。

さて、化学グランプリを始めとした科学技術コンテストは近年その重要性が認識され、行政からの支援も拡大し、知名度も大幅に上がってきています。また、2010 年には化学オリンピックの日本での開催が決定しています。この機会を活かして、主役である高校生が更に多く参加し、受験化学ではない化学本来の面白みを体験してもらえることを願っています。動機は電卓でもノートパソコンでも何でもいいので、是非チャレンジして下さい。

最後に、このような機会を与えて下さった関係者の方々に感謝とお礼を申し上げます。ありがとうございました。

2-5 アンケート集計結果

2-5-1 一次選考参加者へのアンケートと回答結果

開催:平成19年7月16日

参加者数:2009名, アンケート回答者数 2006名

参加地域および学年

会場	合計	1年	2年	3年	不明
札幌	45	14	18	9	4
旭川	8	3	3	1	1
北見	2			2	
青森	55	3	14	31	7
岩手	78	10	2	56	10
宮城	108	11	35	48	14
秋田	19		11	7	1
山形	9		3	6	
福島	39	3	19	14	3
茨城	30	2	16	9	3
栃木	25	12	8	1	4
群馬	93	22	29	33	9
埼玉第1	23	5	14	2	2
埼玉第2	49	6	22	18	3
千葉	30	5	10	13	2
東京第1	181	39	62	69	11
東京第2	34	8	15	7	4
神奈川	40	10	20	6	4
新潟第1					
新潟第2	4	1	1	2	
山梨	83	1	20	51	11
松本	29	1	8	14	6
岐阜	38	6	18	7	7
恵那	6		2	3	1
静岡	38	13	16	4	5

会場	合計	1年	2年	3年	不明
名古屋	110	9	28	68	5
三重	5	2	1	2	
富山	35	4	11	17	3
石川	62	12	19	21	10
福井	7	2	2	2	1
京都	15	3	8	3	1
大阪	117	19	48	38	12
島根	11	1	3	4	3
岡山	61	5	7	42	7
広島	32	10	8	10	4
山口	22	2	5	13	2
徳島	33		22	8	3
愛媛	91	26	28	30	7
福岡第1	34	8	15	8	3
福岡第2	10	2	2	4	2
福岡第3	5	1	3	1	
佐賀	24	1	4	9	10
長崎第1	53	1	21	26	5
長崎第2	2		1	1	
熊本	65	11	26	21	7
大分	10	1	2	5	2
宮崎	52	1	8	43	
鹿児島	40	6	21	12	1
沖縄	30	1	14	15	
不明	14		1	5	8
総計	2006	303	674	821	208

(1) 全国高校グランプリを、何で知りましたか。

	1年	2年	3年	無回答	合計
先生	203	544	693	167	1607
ポスター	45	62	69	21	197
友人・知人	32	32	40	12	116
新聞・雑誌	2	4	1	0	7
インターネット	4	11	9	2	26
その他・無回答	17	21	9	6	53
合計	303	674	821	208	2006

<その他>

部活動

22

家族

5

(2) 参加しようと思った動機は？(複数回答)

	1年	2年	3年	無回答	合計
面白そうだったから	111	217	276	61	665
化学が好きだから	103	204	235	66	608
化学が得意だから	13	27	47	4	91
去年も参加したから	5	54	102	21	182
先生や友人に勧められたから	113	356	407	96	972
全国大会に出たいから	3	14	15	6	38
自分の力を試したいから	48	126	191	46	411
国際化学オリンピックに出たいから	18	25	5	3	51
勉強になると思うから	87	184	244	65	580
パソコンがほしいから	13	21	39	7	80
その他・無回答	27	37	42	12	118
合計	541	1265	1603	387	3796

〈その他〉

東京に行きたいから	1	強制参加	39
去年出来なかったから	3	パソコンがほしいから	1
化学が好きになると思ったから	8	電卓がほしいから	14
入試・学校の成績に影響するから	9	白衣がほしいから	1
無料だから	7	部活行事	19

(3) 一次選考は全体としていかがでしたか？

	1年	2年	3年	無回答	合計
易しかった	1	4	3	2	10
予想通り	3	21	29	6	59
難しかった	47	180	332	59	618
非常に難しい	248	464	431	138	1281
無回答	4	5	26	3	38
合計	303	674	821	208	2006

(4) 各問題は難しかったですか？

問 1	1 年	2 年	3 年	無回答	合計
易しい	3	31	65	10	109
普通	38	134	233	31	436
難しい	109	277	311	89	786
非常に難しい	152	231	208	78	669
無回答	1	1	4	0	6
合計	303	674	821	208	2006

問 2	1 年	2 年	3 年	無回答	合計
易しい	2	8	7	4	21
普通	8	39	87	12	146
難しい	52	177	337	64	630
非常に難しい	240	448	386	126	1200
無回答	1	2	4	2	9
合計	303	674	821	208	2006

問 3	1 年	2 年	3 年	無回答	合計
易しい	0	12	22	8	42
普通	16	91	163	18	288
難しい	76	214	332	72	694
非常に難しい	210	355	299	107	971
無回答	1	2	5	3	11
合計	303	674	821	208	2006

問 4	1 年	2 年	3 年	無回答	合計
易しい	0	3	3	2	8
普通	5	11	20	1	37
難しい	26	118	182	42	368
非常に難しい	271	539	608	161	1579
無回答	1	3	8	2	14
合計	303	674	821	208	2006

(5) 各問題で取り扱っている化学的内容はいかがでしたか？

問 1	1 年	2 年	3 年	無回答	合計
興味が持てる	132	288	327	69	816
普通	94	244	352	88	778
つまらない	8	46	60	17	131
わからない	69	93	77	34	273
無回答	0	3	5	0	8
合計	303	674	821	208	2006

問 2	1 年	2 年	3 年	無回答	合計
興味が持てる	111	250	379	85	825
普通	74	198	257	53	582
つまらない	19	58	60	16	153
わからない	99	166	119	54	438
無回答	0	2	6	0	8
合計	303	674	821	208	2006

問 3	1 年	2 年	3 年	無回答	合計
興味が持てる	128	311	351	90	880
普通	98	204	299	61	662
つまらない	11	45	47	11	114
わからない	66	112	118	46	342
無回答	0	2	6	0	8
合計	303	674	821	208	2006

問 4	1 年	2 年	3 年	無回答	合計
興味が持てる	82	195	198	51	526
普通	77	182	250	58	567
つまらない	17	66	98	27	208
わからない	127	229	269	72	697
無回答	0	2	6	0	8
合計	303	674	821	208	2006

(6) 来年も挑戦したいですか？

	1 年	2 年	合計
はい	192	309	501
いいえ	19	95	114
何とも言えない	90	267	357
無回答	2	3	5
合計	303	674	977

(7) 「国際化学オリンピック」について知っていましたか？

	1 年	2 年	3 年	無回答	合計
グランプリを知るより前	44	83	121	24	272
グランプリを知るのと同時またはその後	212	496	563	142	1413
今日初めて知った	47	94	121	39	301
無回答	0	1	16	3	20
合計	303	674	821	208	2006

(8) 感想・その他

難しかった	348	時間が足りなかった	41
去年より難しかった	4	時間が長かった	6
去年より簡単	1	化学の奥深さを知った	22
もっと簡単にしたい	6	興味が持てた	38
おもしろかった	104	電卓をもらえて嬉しい	4
勉強になった	12	疲れた	13
もっと化学を勉強したいと思った	16	兵庫県に会場が欲しい	2
物理的な内容が多い	19	沼津に会場が欲しい	1
問題が多い	9	会場が暗かった	1
問題文が長かった	5	会場が遠かった	3
いい経験になった	27	会場が暑かった	4
来年も挑戦したい	85	会場が寒かった	5
時間が短く感じた	5		

(抜粋)

- ・ 全く分からなくてとてもつまらないかと思っていたが意外と楽しめてよかった。設問ごとの説明が読んでいておもしろかった。
- ・ 時間があればもっと解けるのではないかと思います。
- ・ 受験の化学ととても違っていたので、とても驚きました。まだ一年なので来年に向けてがんばって勉強したいと思います。
- ・ 試験時間がもっと短ければ参加人数は増えると思います。
- ・ 今年で化学グランプリに参加するのは3年目になります。年々問題がとても面白くて楽しみにしていました。今年で最後になるのが残念です！
- ・ 今年は私が三年生ということもあり、最後の大会となりました。化学グランプリは毎年あまり問題が解けないにしても問題文を読むだけで楽しいというとても良いものでした。今回も第二問は解けませんでした。色々な新しい知識をその事以上に得たのではないかと思います。この大会は高校生にとっては登竜門のような存在であり、また、交流を深める事も出来ると思うので、これからは是非行ってほしいです。
- ・ 今年で2回目で、最後の受験だったけど、精一杯解いたので悔いはないです。
- ・ 過去問をしていなかったら。もっと悪かったと思う。過去問はありがたかった。
- ・ 化学についての知識ももちろん必要だが、それ以上に思考力、計算力が必要とされるのだと、改めて知った。そのおかげで二時間半を楽しめた。
- ・ 化学おもしろい！でも考えさせたいなら、平均点が高くなったとしても、もう少し易しい題材にしないと、考えている途中であきちゃいます。
- ・ 問題に関連した専門的な事項の解説書があれば、ホームページなどで紹介してほしい。なければ作ってほしい。
- ・ 今回、化学グランプリを受けてみて、さらに化学に興味を持ちました。大学へ行っても、化学について学びたいと思うようになりました。進路決定に大きな役割を果たしてくれた。全国高校化学グランプリに感謝です。ただ、自分の力の足りなさを痛感しました。
- ・ 問題は難しすぎて全然分からなかったが、化学により興味をもつことができたから参加してよかった。
- ・ 難しいし、分からなかったけど、学校の化学とは違う面白さがあったよかった。化学をもっと勉強したくなった。
- ・ 2時間30分って多い気がしたけど実際に受けてみると足りないほどだった。解説をじっくり読んで整理していたらもうちょっと解けた気がするが、現実をあせってしまってなんとなく中途半端だった。しかし、学校の座学の化学よりはおもしろかった。
- ・ 意外な発見やなるほどと思うようなことがたくさんみつけれられた。このような機会が持てて非常によかった。
- ・ 生活の中の出来事と関連してあって、取り組みやすかった。
- ・ この問題は包括的にできていて明るい未来が化学的な見地から見ることができ面白かったです。

2-5-2 二次選考参加者へのアンケートと回答結果

開催:平成19年8月18日・19日

参加者数:57名, アンケート回答者数 55名

1. 二次選考(実技)について

(1) 今回の二次選考(実技)の難易度や内容はどうでしたか？

- ・ 難しかった。でも実験するのも初めての高校生には高校の授業で取り扱うダニエル電池という題材を深く掘り下げたものだったので、なんとか取り組めたものだと思う。興味深かった。
- ・ 有機合成にして欲しかった。実験操作自体は難しくなかったけど電位差計の値がくるくる変わり、計るたびに値が変わるのが、訳が分からなかった。蒸留とか、もう少し化学っぽいのをやりたかった。
- ・ 難しかった。起電力が計ったものと全く違って、自分の実験が全く正確でなかったのですごくショックだった。
- ・ 難しいけど、とっかかりが分からないわけでもない、いい難易度でした。問題も、今まで気になっていた「本当は難しいんじゃないかな～」と思っていたダニエル電池であったので楽しませてもらいました。
- ・ 電位差がなかなか安定せず、どの値をとればよいか分からなかった。
- ・ 日常的に実験をしない自分にとっては厳しいものとなりましたが、とても楽しかったです。
- ・ 実験に使う薬品。器具は使ったことがあるものばかりだったので、実験の作業自体はやりやすかったが、実験手順を自分で考えさせる問題は難しかった。
- ・ 非常に難しかったが、興味のもてるおもしろい内容だった。
- ・ 自分一人で実験することが初めてだったので非常に難しかったけれど内容はダニエル電池とわかりやすくいい問題だったと思います。
- ・ 難しかった。少し時間が足りなかった。ダニエル電池という学校で習う事を題材にしていたのが良かった。
- ・ 確かに難しかったが、難易度は予想していたほどひどくはなかった。
- ・ とても難しかったが身近な電池の基礎として有名なダニエル電池を掘り下げて考えるのが面白かった。
- ・ 難易度はあまり高くなかったと思います。しかしこまごめピペットとメスシリンダーを使うのはどうかと思います。ホールピペットとメスフラスコを使ったほうが良かったと思います。あと、表の注意書に使用する物質名を書くべきではないでしょうか。それに加えて実験で何をしたかとの内容をレポートに記入させるべきだと思います。
- ・ 実際に解答で求められている精度の実験を行うのが、普段やっていないだけにとっても難しかった。
- ・ 少し難しいように感じた。内容的には授業で学んだことのちょっとした発展であったので興味をもてた。
- ・ やや難しかった。しかしながら高校生にとっては出来てもおかしくないレベルだと思う。
- ・ 器具の操作が慣れずに大変でした。問題は実験4がよく考えないと分からなくて面白い間だったと思います。結局分からず、悔しかったです。

- ・ テーマがとても興味深かった。時間も丁度良く楽しめた。
- ・ 濃度の調製にホールピペットが使えなかったのが痛かった。
- ・ まあまあたのしく良かったと思います。色のかわる反応などを見れて楽しかったです。
- ・ 見たことがある内容で取りかかりやすい反面、何をやっているのか分かってないと途中で何をすればいいか分からなくなるので適当な難易度だと思った。昨年のような「こういう場所・環境でしかできない」ような実験ではなかったのが少し残念だった。
- ・ 高校生のレベルにあっていて今までで一番よいと思う。
- ・ 基本的な器具の使い方が良く分からず数値がひどかったが、内容はとても興味のもてるもので、試験でさえなければ非常に楽しんだらと思う。難易度も自分には難しかったが、化学グランプリ二次選考としては丁度良いと思う。
- ・ 実験の流れが与えられており、手を付けやすかった。が考察や最後の定量はかなり考えさせられ、難しかった。全体として実験とレポートでバランスがとれていて、興味のもてる内容だった。
- ・ 難易度はそれほど高くなかったと思うが、最初のグラフでその後の値が決まってしまうので精密性が要求されたと思う。それから、溶液の希釈が多く大変だった。
- ・ 精度を上げるのが難しかった。考え方自体は複雑すぎるということではなかった。
- ・ 実験自体は内容が身近で分かりやすかったが、やはり自分で考えなければならぬ部分も多く後半に行くにしたがって考えながら実験をしなければならず難しかった。
- ・ 操作で測定を正確にするのが難しかった。
- ・ 実験をあまりしたことがなかったせいか難しく感じた。手がふるえて正確な値は得られなかった。出題の意図はまだよく分かりません。
- ・ 難しい。測定値の微妙なブレで結果が大きくずれるので。
- ・ 数値が変動するなどして、計測が難しかった。
- ・ 難しかったが、二次選考ならばこれぐらいの難易度でも良いと思う。内容については有機の方がよかった。
- ・ とても難しかったです。もっと理解を深めておかないと解けないと思いました。
- ・ 課題 8(Na₂SO₄系と純水系の差異)以外は 30 分余して終わったので「大きな勘違いをした」か「難しくなかった」のどちらかであろう。テーマは面白いものだったと思う。
- ・ 現実と実際の理論がかみ合っていて面白かった。後半部分の考察と手順設定が難しかった。
- ・ 難易度云々よりも楽しかった。(自分で実験をしたのが初めてだったので) ただ、ホールピペットが欲しかった。
- ・ 僕にとっては難しかったけど他から見たら簡単なのでは?時間も十分にあったし、もう少し量が多くてもよかったかも。
- ・ 正直難しかった。電位差計の正確な取扱いを教えて欲しかった。
- ・ 内容は、一目見ると簡単でしたが、正確な値を得るために様々な作業を毎回しなければいけなかったのが問題を難しくしました。身近なものがテーマだったのは良かったと思います。

(2) 今後このような実技にはどんなテーマがふさわしいと思いますか？

- ・ 化学の根底にあるものとかかわってくるテーマが良いと思う。
- ・ テーマは良く知られているけれど中身は深くて難しいというようなもの。
- ・ 身近なもの、現象をあつかったもの（ミネラルウォーターの成分分析とか）が良い。
- ・ 身近な製品などに使われている物質や反応を考える問題が面白いし、興味がわくと思う。
- ・ 今回のように教科書に書かれているような事柄を深く探求していくというテーマがよいと思う。
- ・ 今回と同様の、教科書等でも書かれている実験を掘り下げたもの。
- ・ 今回のように授業で学んだことを少し発展させるような実験。
- ・ 実際に大学などで実験されているような実験がふさわしいと思う。
- ・ 大学でないとなかなか使えない装置を用いた実験。
- ・ IChO に従った問題などがやれたらよいと思う。
- ・ 実験結果から深く考えて結論を出さなければならないようなもの。
- ・ 自分で考えて試行錯誤できるような内容。
- ・ 実験方法を色々工夫できる方がよいと思う。
- ・ 化学を題材にしたもの。
- ・ 機械の数字を読むのはやめた方がいい。自分自身の丁寧さが重要になるテーマの方がいいと思う。少なくとも定量にホールピペットは欲しかった。
- ・ 新しい技術に関するもの。
- ・ 最近研究が盛んな燃料電池や光触媒など。
- ・ ピクリン酸の合成。
- ・ 有機合成。
- ・ 有機合成をして、化合物の性質を調べ、反応がどのようなものかの特定をする。
- ・ 有機化合物の構造推定・構造決定（NMR など）。
- ・ 有機化合物の反応率。
- ・ 反応速度論。
- ・ 分留や蒸留など。
- ・ 無機。
- ・ 未知試料の分析。
- ・ 金属の分離。
- ・ イオン化傾向。
- ・ 緩衝溶液の pH 等。
- ・ 定量分析と定性分析の両方を含むようなテーマが良いと思います。過去問にあった金属を決定し濃度を求めるようなもの。
- ・ 自分が参加した 3 回には全て滴定がなかった！（その 1 回前は滴定だったようですが）オリンピックでは 2 題中 1 題は確実に滴定なので 2 年に 1 回は滴定でもよいのでは？

2. 合宿について

(1) 懇親会について

項目	件数
1.とてもよかった	13
2.よかった	23
3.普通	18
4.よくなかった	0
5.全然よくなかった	0
6.未回答	0

(その他自由意見)

- ・ OB・OGに会えたのが嬉しかった。(パンフレットの中だけの人だったから)
- ・ 座る場所が少なかった。もう少しゲーム的なものがあったかも良かったです。
- ・ 会場が狭く、落ち着いて食べる場所も無かったが、懇親の目的では逆に丁度良かった。
- ・ 知らないメンバーと話ができてよかったが、グループの人数はもっと多いほうが良い。
- ・ 全国の優秀な人と会うことができてよかった。

(2) 宿泊施設について(部屋・朝食含む)

項目	件数
1.とてもよかった	4
2.よかった	19
3.普通	19
4.よくなかった	12
5.全然よくなかった	0
6.未回答	0

(その他自由意見)

- ・ 全館貸し切った方が良い。
- ・ 部屋の広さ、朝食共に適当・丁度良い。部屋からの眺めも良かった。
- ・ 大人数で宿泊したい。
- ・ 朝食のボリュームがあるとよかった。
- ・ 消灯時間が早すぎる。

(3) 宿泊日数について

項目	件数
1.ちょうどよい	32
2.2泊3日がよい	11
3.3泊4日がよい	7
4.宿泊形式でない方がよい	3
5.未回答	0

(その他自由意見)

- ・ 一泊 2 日では全員と顔見知りになるのには短すぎる。
- ・ もっと多くの人と仲良くなりたい。実験試験を 5 時間にして欲しい。講演とか見学とかも多く取り入れて欲しい。
- ・ 合宿という感じがあまりしなかった。もっと講演を聞いたり、試験ではない実験をやったりしたかったです。
- ・ 一泊ではそんなに親睦は深まり切らない。
- ・ 講演会をもう少し入れて、他のイベントも入れて生徒同士のつながりをもう少し求めたい。

(4) 二次選考合宿開催地について

項目	件数
1.東京がいい	33
2.大阪がいい	5
3.東京・大阪以外がいい	14

(具体的な地名：つくば/北海道/沖縄 2/都会から離れた都市/海外 2/名古屋 2/京都)

(その他自由意見)

- ・ 年度毎に関東・関西と交互でも良いと思う。
- ・ 様々な地区で開催し、PR した方が良い。

(5) 二次選考解説会について

項目	件数
1.とても興味深い	11
2.興味深い	24
3.普通	16
4.あまり興味を持ってない	2
5.つまらない	0
6.未回答	1

(その他自由意見)

- ・ 燃料電池の話が良かったです。
- ・ 自分の間違いが気になってあまり楽しく思えなかった。燃料電池の話は面白かった。
- ・ 燃料電池について文化祭で調べたことがあったので楽しく聞けた。
- ・ 思ったより簡単な理屈だったので悔しいです。
- ・ 出題の意図がよくわかった。
- ・ 実験内容・燃料電池について大変興味を持った。

(6) 講演会について

項目	件数
1.とても興味深い	34
2.興味深い	14
3.普通	5
4.あまり興味を持ってない	1
5.つまらない	0
6.未回答	0

(その他自由意見)

- ・ とても難しいので理解するで一杯一杯だった。
- ・ 滅多に聞くことの出来ない講義を聞け面白かった。
- ・ 内容がとても濃くて面白かったです。これからどう発展していくのかが楽しみです。
- ・ 最先端の研究を直接教えてもらえて面白かったです。
- ・ まさに最先端でこの道に進みたいと思いました。
- ・ 話も内容も面白かった。
- ・ まだ自分の知らない言葉が多く、理解するのが難しかったが、大意は分かり、面白かった。また、わからなかったことを知りたいという思いが生まれ、化学をさらに学びたいと思った。
- ・ 公式には発表されていないような事まで聞くことができとても光栄です。

(7) 合宿に参加していかがでしたか

項目	件数
1.満足	29
2.まあまあ満足	18
3.普通	6
4.やや不満	0
5.不満	1
6.未回答	0

(その他自由意見)

- ・ 合宿形式になってよかったです。いろいろ語り合ううちに朝になってしまったものすごい寝不足で講演を聞いてしまったのが残念です。実験は難しかったけどまあまあ楽しめて電位差計をもらったのが嬉しかったです。同年代の化学好きの人と友達になれたことが1番良かったです。
- ・ 60名もいると全員と面識を持つのは不可能であったが、多くの人と話せて良かった。
- ・ 合宿自体については、普段引込み思案で積極的な行動を取れない私にとって大変貴重なものでした。来年も1次試験を受けてもう一度来ることが出来るよう努力する予定です。
- ・ 同じ化学好きの人達と一晩話が出来て嬉しかった。また、志望大学も皆殆ど同じで、そういった話もできて大いに刺激になりました。これからより一層化学を学んでいきたいです。
- ・ 様々な地域の人が集まって話ができるような機会がめったにないのでとても面白かった。

- ・ 物理チャレンジのように合宿中にいろんな施設を回れたらいいなと思った。
- ・ 実験は全く歯が立たなくてもっと勉強しないといけないと思った。多くの人と話げできたことが良かった。
- ・ 友人との会話から色々な刺激をうけた。
- ・ 充実しており良かったと思う。参加人数をもう少し増やす(80~100人程度)と良いと思う。

3. その他

- ・ 実験後は疲れているので、立食の懇親会と電車での移動はきつい。
- ・ 経験したことの無いことがたくさん経験出来、本当に新鮮で楽しかった。すごい人はいくらでもいることに改めて実感し、刺激を受けた。この経験を将来に生かせたらいいと思う。
- ・ 試験時間が少し長く集中力が続かなかったので、問題数を減らし 3 時間程度にした方が良く思う。
- ・ 全体を通して良かったです。試験を行うだけではなく、他にもいろいろなことが出来て楽しむことができました。満足しています。出来ればもう一度このメンバーで集まりたいと思います。
- ・ 実験終了後の電車移動はきついのでバス移動であって欲しかったです。
- ・ この大会自体知らない化学が出来る子がまだまだいっぱいいると思うので、もっと広告すべきだと思う。
- ・ もっと強制的に交流させられる機会があると良かった。

2-6 報道記事リスト(全国高校化学グランプリ)

No.	媒体名	媒体社名	掲載日	内容
1	朝日新聞(東京)	朝日新聞社	4月13日	理科実験安全に (グランプリの実験写真を掲載)
2	朝日新聞(札幌)	朝日新聞社	4月13日	〃
3	朝日新聞(名古屋)	朝日新聞社	4月13日	〃
4	朝日新聞(大阪)	朝日新聞社	4月13日	〃
5	朝日新聞(北九州)	朝日新聞社	4月13日	〃
6	日刊工業新聞(大阪)	日刊工業新聞社	4月24日	グランプリ参加募集
7	化学工業日報	化学工業日報社	4月24日	〃
8	福島民友	福島民友	5月1日	〃
9	宮崎日日新聞	宮崎日日新聞社	5月3日	〃
10	教育新聞	教育新聞社	5月3日	〃
11	読売新聞・夕刊(東京)	読売新聞社	5月7日	〃
12	読売新聞・夕刊(札幌)	読売新聞社	5月7日	〃
13	読売新聞・夕刊(大阪)	読売新聞社	5月7日	〃
14	東京新聞	中日新聞東京本社	5月8日	〃
15	中日新聞・夕刊	中日新聞社	5月8日	〃
16	朝日新聞・鹿児島版	朝日新聞社	5月10日	〃
17	朝日新聞・栃木版	朝日新聞社	5月11日	〃
18	産経新聞・埼玉版	産経新聞社	5月11日	〃
19	読売新聞・愛媛版	読売新聞社	5月13日	〃
20	東奥日報・夕刊	東奥日報社	5月14日	〃
21	伊勢新聞	伊勢新聞社	5月16日	〃
22	朝日新聞・夕刊	朝日新聞社	5月17日	〃
23	読売新聞・佐賀版	読売新聞社	5月18日	〃
24	毎日新聞・栃木版	毎日新聞社	5月25日	〃
25	子供の科学	誠文堂新光社	6月10日	〃
26	朝日新聞・群馬マリオン	朝日新聞社	6月12日	〃
27	朝日新聞・三重版	朝日新聞社	6月14日	〃
28	長野日報	長野日報社	6月14日	〃
29	上毛新聞	上毛新聞社	6月17日	〃
30	信濃毎日新聞	信濃毎日新聞社	6月19日	〃

No.	媒体名	媒体社名	掲載日	内容
31	信濃毎日新聞	信濃毎日新聞社	7月17日	グランプリ一次選考
32	北陸中日新聞	中日新聞社	7月17日	〃
33	河北新報	河北新報社	7月20日	〃
34	聖教新聞	聖教新聞社	8月11日	グランプリ二次選考
35	聖教新聞	聖教新聞社	8月16日	〃
36	宮崎日日新聞	宮崎日日新聞社	8月17日	宮崎北高 田上君インタビュー
37	日刊工業新聞（東京）	日刊工業新聞社	8月21日	グランプリ結果
38	日刊工業新聞（大阪）	日刊工業新聞社	8月21日	〃
39	化学工業日報	化学工業日報社	8月21日	〃
40	北国新聞	北国新聞社	8月21日	大賞受賞者 館農君インタビュー
41	北陸中日新聞	中日新聞社	8月21日	〃
42	静岡新聞	静岡新聞社	8月28日	清水東高 根元、佐藤さんインタビュー
43	福井新聞	福井新聞社	8月28日	藤嶋高 川上君インタビュー
44	山梨日日新聞	山梨日日新聞社	8月29日	甲府南 堀内君インタビュー
45	読売新聞・鹿児島版	読売新聞社	9月8日	志学館高 向吉さんインタビュー
46	山梨日日新聞	山梨日日新聞社	9月12日	甲府南 堀内君インタビュー
47	静岡新聞	静岡新聞社	9月18日	浜松西 加藤君インタビュー
48	琉球新報・夕刊	琉球新報社	9月21日	昭和薬大 大城君インタビュー
49	聖教新聞	聖教新聞社	9月30日	創価高校生金賞受賞
50	東愛知新聞	東愛知新聞社	10月1日	時習館 奥田君 大賞受賞
51	河北新報・夕刊	河北新報社	10月22日	目指せ国際化学五輪！

3 第39回国際化学オリンピック

3-1 実施記録

全国高校化学グランプリ2006で選抜した9名の代表候補から4名の代表を選抜し、平成19年7月15日(土)～24日(火)にロシア・モスクワで行われた第39回国際化学オリンピックへ生徒を派遣した。

[スケジュール]

代表候補認定式	平成18年11月18日(土)	於:化学会館
準備問題配信	平成19年1月～2月	
代表生徒選抜合宿	平成19年3月29日(木)～31日(土)	於:クロスウェーブ東中野
代表生徒実験合宿	平成19年4月28日(土)・29日(日)	於:開成中学校
壮行会	平成19年7月13日(金)	於:化学会館
ロシア大会	平成19年7月15日(日)～24日(火)	於:モスクワ
表敬訪問	平成19年7月25日(水)	於:文部科学省・経済産業省
参加報告会	平成19年9月29日(土)	於:化学会館

[大会概要]

開催期間	平成19年7月15日(土)～24日(火)		
参加国・地域	66ヶ国・地域		
参加人数	256名		
代表生徒結果	田中 成	私立開成高等学校・3年	銅メダル
	角田 翔太郎	筑波大学附属駒場高等学校・3年	銅メダル
	廣井 卓思	筑波大学附属駒場高等学校・3年	銅メダル
	山口 一樹	静岡県立清水東高等学校・3年	銅メダル
引率者	菅原 義之	早稲田大学理工学部・教授	ヘッドメンター
	米澤 宣行	東京農工大学工学部・教授	メンター
	多賀 圭次郎	名古屋工業大学しくみ領域・教授	オブザーバー
	松岡 雅忠	駒場東邦中学・高等学校・教諭	ゲスト



全員銅メダル獲得

[代表生徒選抜合宿]

日時 平成 19 年 3 月 29 日(木)～31 日(土)

会場 クロスウェーブ東中野

スケジュール

平成 19 年 3 月 29 日(木)

～12:30	参加者受付	於：クロスウェーブ東中野
13:00～14:00	集合・オリエンテーション	於： //
14:00～15:30	講義 1:物理化学	於： //
15:45～17:15	講義 2:有機化学	於： //
18:00～19:00	夕食	於： //
19:00～21:00	自由質問時間	於： //

平成 19 年 3 月 30 日(金)

07:00～08:00	朝食	於：クロスウェーブ東中野
08:50～10:20	講義 3:分析化学	於： //
10:30～12:00	講義 4:無機化学	於： //
12:00～12:45	昼食	於： //
13:00～18:00	選抜試験	於： //
18:00～20:00	懇親会	於： //

平成 19 年 3 月 31 日(土)

07:00～08:00	朝食	
09:00～12:00	エクスカーション	於：東京大学駒場キャンパス
12:00～13:00	昼食	於：クロスウェーブ東中野
13:00～14:00	講演会	於： //
	講師：小林 憲正 先生(横浜国立大学大学院工学研究院)	
	演題：生命の起源を化学で考える	
14:00～	結果発表	於： //



最終選抜試験の様子



エクスカーションは東京大学



講演会の様子



集合写真

[代表生徒実験合宿]

日時 平成19年4月28日(土)・29日(日)

会場 開成中学校 化学実験室

スケジュール

平成19年4月28日(土)

13:00～13:30 集合・説明

13:30～18:00 実験訓練

18:15～19:00 夕食

19:00～20:00 講演会

講師：梶 雅範 先生(東京工業大学大学院 社会理工学研究科)

演題：メンデレーエフの生涯と業績

20:00～ 宿泊場所へ移動

平成19年4月29日(日)

～09:00 起床・朝食後、実験会場へ移動

09:00～11:30 実験訓練

11:30～12:00 代表認証楯授与式

12:00～13:00 昼食

13:00～18:00 実験訓練

18:00～ 解散



実験訓練の様子



実験訓練の様子



講師の梶先生を中央に記念撮影



代表認証楯を手に、引率の先生方と記念撮影

[壮行会]

開催日 平成 19 年 7 月 13 日(金)

会場 化学会館 6 階会議室

式次第



2007年7月13日

第39回「国際化学オリンピック」日本代表壮行会

出席者紹介

■第39回「国際化学オリンピック」日本代表団

代表生徒:	私立開成高等学校(東京都)3年	田中 成(タナカ ナル)さん
	国立筑波大学附属駒場高等学校(東京都)3年	角田 翔太郎(ツノダ ショウタロウ)さん
	国立筑波大学附属駒場高等学校(東京都)3年	廣井 卓忠(ヒロイ タカシ)さん
	静岡県立清水東高等学校(静岡県)3年	山口 一樹(ヤマグチ カズキ)さん

引率者:	ヘッドメンター	菅原 義之
	メンター	米澤 宣行
	サイエンティフィックオブザーバー	多賀 圭次郎
	オブザーバー	松岡 雅忠

■来賓

文部科学省 科学技術・学術政策局基盤政策課長	山脇 良雄 様
経済産業省 製造産業局化学課長	山根 啓 様
(独)科学技術振興機構 理数学習支援部 先端学習支援課長	加藤 芳宏 様

■主催者

「夢・化学-21」委員会組織委員長	富澤 龍一
日本化学会化学教育協議会議長	井上 祥平
化学グランプリ・オリンピック委員会委員長	杉村 秀幸

■司会

化学グランプリ・オリンピック委員会オリンピック WG 主査	伊藤 真人
-------------------------------	-------

式次第

13:30-13:35	開会宣言、出席者紹介
13:35-13:40	主催者挨拶 ・「夢・化学-21」委員会組織委員長 富澤 龍一
13:40-13:55	ご来賓挨拶 ・文部科学省科学技術・学術政策局基盤政策課長 山脇 良雄 様 ・経済産業省製造産業局化学課長 山根 啓 様 ・(独)科学技術振興機構 理数学習支援部 先端学習支援課長 加藤 芳宏 様
13:55-14:00	「国際化学オリンピック」概要説明(杉村委員長)
14:00-14:15	DVD 「国際化学オリンピックに挑戦しよう!」上映
14:15-14:25	派遣生徒への花束・国旗贈呈 ・プレゼンター: 日本化学会化学教育協議会議長 井上 祥平
14:25-14:30	派遣生徒より決意表明
14:30-14:40	記念撮影
14:40	壮行会終了

3-2 第39回国際化学オリンピック参加レポート

はじめに

第39回国際化学オリンピックは、2007年7月15日から23日まで、ロシアモスクワ市のモスクワ国立総合大学（Moscow State University）で開催された。66カ国の256名が参加した、非常に国際的なイベントであった。

壮行会から開会式まで

7月13日午後、国際化学オリンピックロシア大会代表壮行会が日本化学会で開催された。来賓の皆様から激励のお言葉を頂き、代表生徒は決意を新たにしていた。壮行会終了後電車で成田へ移動した。

翌14日成田から空路モスクワに向かった。空港には現地スタッフが出迎えており、中国代表団とともにホテルに向かった。15日朝にホテルでガイドの Maria Khrenova さんと合流した。Khrenova さんは流暢な日本語を話す、モスクワ国立総合大学化学科の学生で、電気化学研究室に所属しているとのことであった。この後は代表生徒はガイドに付き添われて行動した。バスで会場であるモスクワ国立総合大学に出向き、参加登録を行った。

好天に恵まれた16日、開会式が開催された。非常にショーアップされた開会式であり、年齢を問わず楽しめるイベントであった。屋外で行われた式典の後、ホールに移動してさらにいろいろなアトラクションが行われた。遅い昼食後は、代表生徒と引率者は筆記試験終了後まで別行動となった。



ホテルオリンピエツ（参加生徒宿舎）の前で



参加登録



日本代表生徒入場



開会宣言（Prof. Valeriy V. Lunin）



ロシアの伝統的ダンス



大会旗の入場



聖火点火へ



聖火とモスクワ国立総合大学

開会式終了後閉会式前日まで

代表生徒と引率者の行動をまとめると下記の通りとなる。

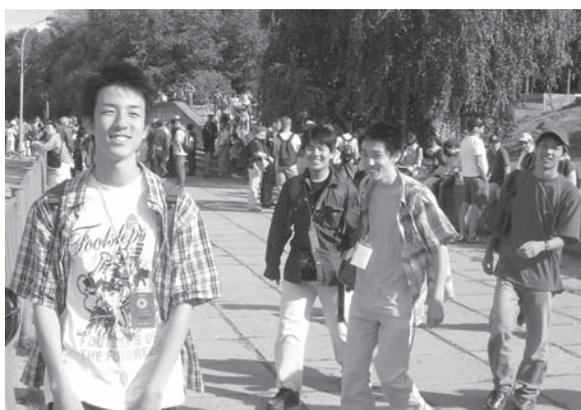
	代表生徒	引率者
16日 (開会式後)	エクスカージョン	実験試験の会場での器具点検／1st Jury Meeting (サイエンティフィックオブザーバーの複数参加の決定、実験試験問題について討論及び問題の最終決定など) 出席
17日	エクスカージョン	実験問題と和訳
18日	実験試験 (5時間)	エクスカージョン／筆記問題検討／2nd Jury Meeting (筆記試験問題について討論及び問題の最終決定) 出席
19日	エクスカージョン	筆記問題と和訳
20日	筆記試験 (5時間)	エクスカージョン
	リユニオンパーティ (モスクワ川クルージング)	
21日	エクスカージョン	エクスカージョン／代表生徒の答案を採点基準に基づいて引率者が採点／3rd Jury Meeting (規則の改定、今後の開催予定など) 出席
22日	エクスカージョン	採点実施者との採点調整／ロシア教育担当大臣との懇談／4th Jury Meeting (メダル配分基準の確定とスポンサーへの感謝状の贈呈など) 出席



翻訳作業会場



Jury Meeting会場



筆記試験を終えて



モスクワ川クルージング（韓国代表と）



次回40回大会（ブダペスト）開催案内
（3rd Jury Meeting）



採点調整会場

閉会式から表敬訪問まで

閉会式はモスクワ国立総合大学のホールで開催された。アトラクションを挟みながら成績が発表され、代表生徒全員が銅メダルを獲得した。閉会式の後バンケットが行われ、参加者全員で思い出を語り合った。

翌日は日本大使館在ロシア連邦日本国大使館 山下恭範一等書記官に昼食にお招き頂き、楽しいひとときを過ごした。その後午後の便で成田に向かった。

成田に翌日午前中到着した後全員で日本化学会へ向かい、藤嶋昭会長を始めとする日本化学会役員の皆様に結果をご報告申し上げた。昼食後、文部科学省、経済産業省に表敬訪問を行った。

文部科学省では伊吹文部科学大臣と懇談させて頂き、また代表生徒全員に文部科学大臣賞が授与された。経済産業省の表敬訪問後解散した。



閉会式での授賞の様子



銅メダル受賞後の記念撮影



バンケット



山下一等書記官との会食



表敬訪問での記念撮影



文部科学大臣賞を受ける廣井卓思君

今回代表生徒全員が銅メダルを獲得できたのは、全国高校化学グランプリの選考並びに代表候補の訓練にあられた関係各位のご尽力によるものである。ここに厚く御礼を申し上げたい。

文責（ヘッドメンター 菅原 義之）

3-3 報道記事リスト(国際化学オリンピック)

No.	媒体名	媒体社名	掲載日	内容
1	化学工業日報	化学工業日報社	4月3日	代表決定
2	朝日新聞・静岡版	朝日新聞社	4月5日	清水東高生、日本代表に
3	静岡新聞	静岡新聞社	4月5日	山口君インタビュー
4	読売新聞・静岡版	読売新聞社	4月15日	〃
5	毎日新聞(名古屋)	毎日新聞社	4月25日	高校生が思考力競う、科学オリンピック
6	毎日新聞(大阪)・夕刊	毎日新聞社	4月25日	〃
7	毎日新聞(北九州)・夕刊	毎日新聞社	4月25日	〃
8	毎日新聞(東京)	毎日新聞社	4月26日	〃
9	毎日新聞(札幌)	毎日新聞社	4月26日	〃
10	産経新聞・静岡版	産業経済新聞社	4月26日	山口君インタビュー
11	静岡新聞	静岡新聞社	4月26日	〃
12	静岡新聞	静岡新聞社	5月1日	山口君インタビュー(「この人」欄)
13	日刊工業新聞	日刊工業新聞社	6月15日	化学五輪日本大会の事業計画案
14	日刊工業新聞(東京)	日刊工業新聞社	6月22日	野依さん、高校生にエール
15	日刊工業新聞(大阪)	日刊工業新聞社	6月22日	〃
16	科学新聞	科学新聞社	6月22日	事業計画、シンボルマーク決定
17	毎日新聞(東京)	毎日新聞社	6月27日	シンボルマーク決定
18	毎日新聞(札幌)	毎日新聞社	6月27日	〃
19	毎日新聞(名古屋)	毎日新聞社	6月27日	〃
20	毎日新聞(大阪)・夕刊	毎日新聞社	6月27日	〃
21	毎日新聞(北九州)・夕刊	毎日新聞社	6月27日	〃
22	日刊工業新聞(東京)	日刊工業新聞社	7月5日	理科教育への注目
23	日刊工業新聞(大阪)	日刊工業新聞社	7月5日	〃
24	静岡新聞	静岡新聞社	7月14日	山口くん意欲見せる
25	化学工業日報	化学工業日報社	7月17日	〃
26	朝日新聞(名古屋)・夕刊	朝日新聞社	7月24日	化学五輪、高校4人「銅」
27	朝日新聞(大阪)・夕刊	朝日新聞社	7月24日	〃
28	朝日新聞(北九州)・夕刊	朝日新聞社	7月24日	〃
29	日本経済新聞(東京)・夕刊	日本経済新聞社	7月24日	〃
30	日本経済新聞(名古屋)・夕刊	日本経済新聞社	7月24日	〃

No.	媒体名	媒体社名	掲載日	内容
31	日本経済新聞（大阪）・夕刊	日本経済新聞社	7月24日	〃
32	日本経済新聞（北九州）・夕刊	日本経済新聞社	7月24日	〃
33	東京新聞・夕刊	東京新聞社	7月24日	〃
34	静岡新聞・夕刊	静岡新聞社	7月24日	山口くん銅メダル
35	高知新聞・夕刊	高知新聞社	7月24日	化学五輪、高校4人「銅」
36	琉球新報・夕刊	琉球新報社	7月24日	化学五輪、高校4人「銅」
37	朝日新聞（東京）	朝日新聞社	7月25日	〃
38	朝日新聞（札幌）	朝日新聞社	7月25日	〃
39	毎日新聞（東京）	毎日新聞社	7月25日	〃
40	毎日新聞（札幌）	毎日新聞社	7月25日	〃
41	毎日新聞（大阪）	毎日新聞社	7月25日	〃
42	毎日新聞（北九州）	毎日新聞社	7月25日	〃
43	読売新聞（東京）	読売新聞社	7月25日	〃
44	読売新聞（札幌）	読売新聞社	7月25日	〃
45	読売新聞（名古屋）	読売新聞社	7月25日	〃
46	読売新聞（大阪）	読売新聞社	7月25日	〃
47	読売新聞（北九州）	読売新聞社	7月25日	〃
48	日刊工業新聞（東京）	日刊工業新聞社	7月25日	〃
49	日刊工業新聞（大阪）	日刊工業新聞社	7月25日	〃
50	化学工業日報	化学工業日報社	7月25日	〃
51	福島民友	福島民友新聞社	7月25日	〃
52	神奈川新聞	神奈川新聞社	7月25日	〃
53	岐阜新聞	岐阜新聞社	7月25日	〃
54	北日本新聞	北日本新聞社	7月25日	〃
55	大阪日日新聞	ザ・プレス大阪	7月25日	〃
56	山口新聞	山口新聞社	7月25日	〃
57	日本海新聞	新日本海新聞社	7月25日	〃
58	佐賀新聞	佐賀新聞社	7月25日	〃
59	大分合同新聞	大分合同新聞社	7月25日	〃
60	徳島新聞・夕刊	徳島新聞社	7月25日	〃

No.	媒体名	媒体社名	掲載日	内容
61	熊本日日新聞	熊本日日新聞社	7月26日	〃
62	化学工業日報	化学工業日報社	7月27日	〃
63	朝日新聞（東京）	朝日新聞社	7月28日	〃
64	朝日新聞（札幌）	朝日新聞社	7月28日	〃
65	朝日新聞（名古屋）	朝日新聞社	7月28日	〃
66	朝日新聞（大阪）	朝日新聞社	7月28日	〃
67	朝日新聞（北九州）	朝日新聞社	7月28日	〃
68	読売新聞（東京）・夕刊	読売新聞社	8月2日	〃
69	読売新聞（札幌）・夕刊	読売新聞社	8月2日	〃
70	読売新聞（大阪）・夕刊	読売新聞社	8月2日	〃
71	科学新聞	科学新聞社	8月3日	〃
72	教育家庭新聞	教育家庭新聞社	8月4日	〃
73	東京新聞	東京新聞社	8月7日	〃
74	朝日新聞（札幌）・夕刊	朝日新聞社	8月11日	科学の甲子園
75	朝日新聞（名古屋）・夕刊	朝日新聞社	8月11日	〃
76	朝日新聞（大阪）・夕刊	朝日新聞社	8月11日	〃
77	朝日新聞（北九州）・夕刊	朝日新聞社	8月11日	〃
78	教育新聞	教育新聞社	8月30日	科学系国際オリンピックで好成績
79	中日新聞（浜松）	中日新聞社	9月22日	化学五輪日本代表候補インタビュー
80	高知新聞	高知新聞社	10月22日	「水育」の楽しさ

4-5 平成 18 年度収支実績および平成 19 年度収支予算

(単位:万円)

収入	費目	18 年度実績	19 年度予算
	独立行政法人科学技術振興機構支援金	1,500	2,500
	夢・化学-21 委員会協賛金	587	778
	社団法人日本化学会	1,060	950
	収入 計	3,147	4,228

支出	費目	18 年度実績	19 年度予算
1-1	「国際化学オリンピック」派遣	236	384
1-2	「国際化学オリンピック」代表(候補)生徒訓練		
1-2-1	選抜合宿・実験合宿	286	251
1-2-3	通信教育等学習支援	105	164
2-1	「全国高校化学グランプリ」一次選考	464	925
2-2	「全国高校化学グランプリ」二次選考	300	365
3-1	「国際化学オリンピック」壮行会	18	20
3-2	「全国高校化学グランプリ」表彰式	198	282
4-1	運営関係費(会議費・報告書作成費)	104	67
5-1	普及広報費	376	820
6	事務局費(人件費・管理事務費)	1,060	950
	支出 計	3,147	4,228

18 年度実績 平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日

19 年度予算 平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日

4-6 委員会等実施記録

[委員会等実施記録]

化学グランプリ・オリンピック委員会

第1回 平成19年3月9日(金) 於:化学会館

運営幹事会

第1回 平成19年1月31日(水) 於:化学会館

第2回 平成19年6月15日(金) 於:化学会館

第3回 平成19年9月29日(土) 於:化学会館

作題WG

一次選考問題作成

第1回 平成19年2月22日(木) 於:化学会館

第2回 平成19年3月9日(金) 於:化学会館

第3回 平成19年4月13日(金) 於:化学会館

第4回 平成19年5月25日(金) 於:化学会館

第5回 平成19年6月8日(金) 於:化学会館

二次選考問題作成

第1回 平成19年6月8日(土) 於:東京工業大学

第2回 平成19年7月25日(水) 於:東京工業大学

第3回 平成19年8月11日(土) 於:東京工業大学

普及WG

第1回 平成18年10月13日(金) 於:化学会館

第2回 平成18年12月26日(火) 於:化学会館

第3回 平成19年1月29日(月) 於:化学会館

オリンピックWG

会合は設けずに主にメール会議で実施

広報WG

会合は設けずに主にメール会議で実施

報告書WG

会合は設けずに主にメール会議で実施

[過去問説明会]

平成19年6月9日(土) 於:名古屋大学 参加者 30名(教員含む)

[支部表彰]

東北支部・関東支部・東海支部・中国・四国支部・九州支部の5支部で実施

4-7 関係者一覧

平成19年度日本化学会化学教育協議会 化学グランプリ・オリンピック委員会

委員長	杉村 秀幸	(横浜国立大学教育人間科学部)	※	普及 WG 主査兼任
副委員長	中村 洋介	(群馬大学大学院工学研究科)	※	報告書 WG 主査兼任
作題 WG 主査	相田 隆司	(東京工業大学大学院理工学研究科)		
作題 WG 副主査	石井 洋一	(中央大学理工学部)		
オリンピック WG 主査	伊藤 真人	(創価大学工学部)		
広報 WG 主査	渡辺 正	(東京大学生産技術研究所)		

委員

青山 好延 ((社)日本化学工業協会 広報部)	田中 秀樹 (中央大学理工学部)
岩藤 英司 (東京学芸大学附属高等学校)	田中 義靖 (東京都立駒場高等学校)
上野 幸彦 (早稲田大学本庄高等学院化学科)	谷川 貴信 (多摩大学目黒高等学校)
歌川 晶子 (多摩大学附属聖ヶ丘中学・高等学校)	田沼 務 (埼玉県立上尾南高等学校)
浦田 浩 (青山学院高等部・中等部)	内藤 卓哉 ((株)東芝 研究開発センター)
尾池 秀章 (東京農工大学工学部)	中込 真 (和洋九段女子高等学校)
大越 慎一 (東京大学大学院理学系研究科)	成田 彰 (東京工業大学附属科学技術高等学校)
小倉 賢 (東京大学生産技術研究所)	西尾 和之 (首都大学東京都市環境学部)
片岡 正光 (小樽商科大学商学部化学教室)	火原 彰秀 (東京大学大学院工学系研究科)
片山 靖 (慶應義塾大学理工学部)	藤本 善徳 (東京工業大学大学院理工学研究科)
香月 義弘 (福岡県教育センター教育指導部)	舩津 忠正 (埼玉県立入間高等学校)
上村 明男 (山口大学工学部)	細矢 治夫 (お茶の水女子大学名誉教授)
神谷 信行 (横浜国立大学工学部)	本間 敬之 (早稲田大学理工学部)
神原 貴樹 (東京工業大学資源化学研究所)	前田 直美 (品川女子学院)
北村 真二 ((社)日本化学工業協会 広報部)	町田 茂 (東京工業高等専門学校)
清田 隆雄 (ラ・サール高等学校)	松岡 雅忠 (駒場東邦中学・高等学校)
工藤 一秋 (東京大学生産技術研究所)	松儀 真人 (名城大学農学部)
車田 研一 (横浜国立大学環境情報研究院)	真船 文隆 (東京大学大学院総合文化研究科)
越野 省三 (奈良県立奈良高等学校)	薬袋 佳孝 (武蔵大学人文学部基礎教育センター)
小西 玄一 (東京工業大学大学院理工学研究科)	宮本 一弘 (開成学園)
小林 憲正 (横浜国立大学大学院工学研究院)	森 敦紀 (神戸大学工学部)
齋藤 俊和 (早稲田中学・高等学校)	森田 一樹 (東京大学生産技術研究所)
酒井 秀樹 (東京都立三田高校)	森本 裕子 (東京学芸大学附属高校等学校大泉校舎)
鮫島 朋美 (東京学芸大学附属国際中等教育学校)	森安 勝 (東京工業大学附属科学技術高等学校)
嶋田 豊司 (奈良工業高等専門学校)	八代 盛夫 (東京工芸大学工学部)
清水 昭夫 (創価大学工学部)	山田 康洋 (東京理科大学理学部第二部)
下村 武史 (東京農工大学工学部)	山内 辰治 (立教新座中学・高等学校)
多賀 圭次郎(名古屋工業大学大学院工学研究科)	弓削 秀隆 (北里大学理学部)
高木 春光 (東京都立広尾高等学校)	吉田 哲也 (筑波大学附属駒場高等学校)
高橋 正 (東邦大学理学部)	吉村 幸浩 (防衛大学校応用化学科)

米澤 宣行 (東京農工大学工学部)
渡部 智博 (立教新座中学・高等学校)

渡邊 賢 (東北大学大学院工学研究科)
(五十音順、敬称略)

全国高校化学グランプリ 2007 一次選考会場責任者一覧

片岡 正光 (小樽商科大学商学部化学教室)
浅川 哲弥 (北海道教育大学旭川校)
岡崎 文保 (北見工業大学工学部)
糠塚 いそし (弘前大学大学院理工学研究科)
南 一郎 (岩手大学工学部)
渡邊 賢 (東北大学大学院工学研究科)
岩田 吉弘 (秋田大学教育文化学部)
大谷 典正 (山形大学理学部)
内田 修司 (福島工業高等専門学校)
松川 覚 (茨城大学教育学部)
池田 宰 (宇都宮大学工学部)
花屋 実 (群馬大学工学部)
上野 啓司 (埼玉大学大学院理工学研究科)
上野 幸彦 (早稲田大学本庄高等学院)
古田 寿昭 (東邦大学理学部)
板橋 英之 (群馬大学工学部)
下村 武史 (東京農工大学工学部)
上田 一義 (横浜国立大学大学院工学研究院)
後藤 真一 (新潟大学機器分析センター)
加藤 正直 (長岡工業高等専門学校)
柴田 正実 (山梨大学大学院医学工学総合研究部)
藤森 邦秀 (信州大学理学部)
石田 勝 (岐阜大学工学部)
西尾 学 (岐阜県立恵那高等学校)
尾形 照彦 (静岡大学理学部)

松儀 真人 (名城大学農学部)
清水 眞 (三重大学大学院工学研究科)
高戸 孝司 (富山県立高岡高等学校)
水野 元博 (金沢大学大学院自然科学研究科)
中田 隆二 (福井大学教育地域科学部)
中川 雅博 (京都府立桃山高等学校)
越野 省三 (奈良県立奈良高等学校)
山本 達之 (島根大学生物資源科学部)
西原 康師 (岡山大学理学部)
古賀 信吉 (広島大学大学院教育学研究科)
青島 均 (山口大学理学部)
今井 昭二 (徳島大学総合科学部)
御崎 洋二 (愛媛大学大学院理工学研究科)
田中 紀之 (福岡教育大学教育学部)
中畠 裕之 (久留米工業高等専門学校)
河済 博文 (近畿大学産業理工学部)
滝澤 登 (佐賀大学理工学部)
小椎尾 謙 (長崎大学工学部)
村上 裕人 (長崎大学大学院生産科学研究科)
石塚 忠男 (熊本大学大学院医学薬学研究部)
西口 宏泰 (大分大学工学部)
白上 努 (宮崎大学工学部)
米澤 弘夫 (鹿児島大学理学部)
伊藤 彰英 (琉球大学教育学部)
(会場順、敬称略)

第39回国際化学オリンピック準備問題翻訳協力者

内田 さやか (東京大学大学院工学系研究科)
鍵 裕之 (東京大学大学院理学系研究科)
竹清 貴浩 (防衛大学校応用化学科)
白鳥 洋介 (東京大学大学院工学系研究科)
今井 隆志 (立命館大学情報理工学部)
深澤 倫子 (明治大学理工学部)
和田 昭英 (神戸大学分子フォトサイエンス研究センター)
竹内 大介 (東京工業大学資源化学研究所)

斎藤 慎一 (東京理科大学理学部第一部)
稲垣 怜史 (東京工業大学資源化学研究所)
下嶋 敦 (東京大学大学院工学系研究科)
横井 俊之 (東京工業大学資源化学研究所)
野村 幹弘 (芝浦工業大学工学部)
菅原 義之 (早稲田大学理工学部)
久保 謙哉 (国際基督教大学教養学部)
梅村 泰史 (防衛大学校応用化学科)

第 39 回国際化学オリンピック代表候補訓練協力者

濱口 宏夫 (東京大学大学院理学系研究科)
真船 文隆 (東京大学大学院総合文化研究科)
石川 正司 (関西大学化学生命工学部)
佐藤 正明 (大阪府立大学総合教育研究機構)

中西 孝 (金沢大学大学院自然科学研究科)
尾形 照彦 (静岡大学理学部)
田端 正明 (佐賀大学理工学部)

日本化学会化学教育協議会顧問

瀬谷 博道 (旭硝子(株)相談役)
野依 良治 ((独)理化学研究所理事長)

舘 糾 ((株)カネカ相談役)
毛利 衛 (日本科学未来館館長)

事務局

遠藤 滋 (日本化学会企画部)
河瀬 裕介 (日本化学会企画部)

小林 将浩 (日本化学会企画部)
富樫 紀子 (日本化学会企画部)

遠山 あずさ (日本化学会北海道支部事務局)
松木 慶子 (日本化学会東北支部事務局)
美園 康宏 (日本化学会関東支部事務局)
森川 隆雄 (日本化学会東海支部事務局)

廣澤 修次 (日本化学会近畿支部事務局)
大野木 恵子 (日本化学会近畿支部事務局)
藤田 美恵 (日本化学会中国・四国支部事務局)
久光 弥恵 (日本化学会九州支部事務局)



「全国高校化学グランプリ」は『学びんピック』認定大会です。

- 発行日：平成 19 年 11 月 9 日(金)
- 作成者：夢・化学-21 委員会 ((社)日本化学会・(社)化学工学会・(社)新化学発展協会・(社)日本化学工業協会)，日本化学会化学教育協議会
- 連絡先：(社)日本化学会内「全国高校化学グランプリ・国際化学オリンピック」事務局
〒101-8307 東京都千代田区神田駿河台 1-5
電話 03-3292-6164 FAX 03-3292-6318 E-mail: grand-prix@chemistry.or.jp
日本化学会化学教育協議会 URL <http://edu.csj.jp/>
全国高校化学グランプリ URL <http://gp.csj.jp/>
国際化学オリンピック URL <http://icho.csj.jp/>